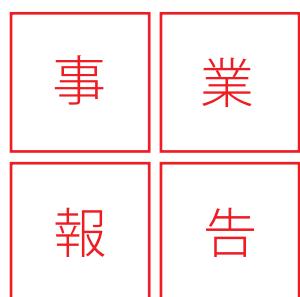


令和 4 年度



**A N N U A L  
R E P O R T**

2022 April ▶ 2023 March

令和 4 年度



ANNUAL  
REPORT

2022 April ▶ 2023 March



Henry Dunant  
1828 - 1910

PAGE CONTENTS

1	Mission Statement
3	事務局長 Message
	事業報告
4	国内災害救護
14	救急法等の講習
18	国際活動
22	赤十字ボランティア
30	青少年赤十字
38	赤十字思想の普及・広報
42	会員（社員）・活動資金の募集
46	医療事業 / 血液事業 / 社会福祉事業 / 看護師養成
60	職員の人材育成
62	評議員会・役員
65	参考資料

アンリー・デュナンは、1859 年、イタリア戦争の激戦地で放置された 4 万人の死傷兵に遭遇します。

「傷ついた兵士はもはや兵士ではない。人間同士、尊い命は救わなければならない。」という信念に突き動かされ、村人たちと協力して、敵味方を区別せず負傷者を救護しました。この体験を「ソルフェリーノの思い出」という本にまとめ、

- ① 傷病者は敵味方の区別なく救護すること
- ② そのために平時から各国に救護団体を組織すること
- ③ この目的のために国際的な条約を締結しておくこと

これらの必要性を訴えました。この思想がヨーロッパ各国の反響を呼び、1864 年に戦争犠牲者の保護・救済のためのジュネーブ条約が調印され、国際赤十字が誕生しました。

※特に断りのないデータは令和 5 年 3 月 31 日時点



# Mission Statement

---

## 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

---

## わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。

公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。

中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。

独立：国や他の救助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。

奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。

単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。

世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

---

## わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。



## 事務局長 Message

平素より日本赤十字社東京都支部の事業に、格別のご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症が国内で確認されて3年目となる中で、まだ先を見通せない状況が続いておりましたが、社会情勢を見極めながら救急法等の講習や防災セミナーの対面実施を徐々に再開し、「いのちと健康を守る」ための事業を展開してまいりました。

また昨年度は、青少年赤十字創設100周年として「未来のあなたへ、やさしさを。」をスローガンに記念事業を実施し、次の100年につなぐ取組みを行いました。

昨年2月に発生したウクライナ人道危機では、今も多くの方々から救援金が寄せられ、幅広い救援活動に活用されています。600人を超える都内への避難民に対する支援方法も検討しております。

今年は、関東大震災から100年の節目です。首都直下地震等に対応するための救護体制の強化・充実を図るとともに、「自助・共助」の重要性を伝えてまいります。

地域の皆さんと連携・協働することで「人々が支え合う、安全、安心な社会」の形成を目指して事業を展開してまいりますので、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



日本赤十字社東京都支部  
事務局長 矢部 信栄

令和4年度も日本全国で多くの自然災害が発生し、大きな被害が生じました。日本赤十字社は、災害発生直後から速やかに医療救護班や日赤災害医療コーディネートチーム等の救護要員を被災地へ派遣し、医療救護活動を行いました。また、変わり続ける被災者のニーズに寄り添い、こころのケア、避難所の保健衛生・健康管理支援、救援物資の配布等、多岐に渡る救護活動をボランティアと一緒に実施しました。

近い将来に発生が予測されている首都直下地震等の大規模災害に対応するため、救護体制の強化・充実を図るとともに、都民の皆さまへの「防災・減災」思想の普及にも取り組んでいます。

### 令和4年度に発生した災害への対応

令和4年8月3日以降、東北地方と北陸地方を中心に断続的に猛烈な雨が降り、記録的な大雨となりました。山形県と新潟県に大雨特別警報が発令され、この大雨の影響により各地で河川の氾濫や土砂災害が発生しました。

日本赤十字社は発災後すぐに関係機関へ職員を派遣し現地の情報を収集したほか、医療救護班による被災地での巡回診療や、避難物資の配布等を行いました。また、避難所での炊き出しや被災した住宅での家具の運び出し等では、多くの赤十字ボランティアが活躍しました。



救護班による巡回診療



ボランティアが被災住宅から家具を運び出す

## ● 赤十字防災セミナー

防災・減災思想の普及を通じて災害時の被害軽減を図ることを目的として、自治会等の自主防災組織や法人、学校等に向けて実施している防災教育事業。

一人でも多くの皆さんに防災・減災に関する正しい知識と技術を普及するため、対面での実施に限定せず、オンラインセミナーやWEB教材を活用しています。

### 令和4年度開催実績

コース名	内容	開催回数	受講者数
防災基礎コース	災害からいのちを守るための知識や、災害時・避難所生活時に役立つ技術を伝え、皆さまが災害対策を進めるきっかけを作る	33回	772人
地域共助コース	Aコース：地域のコミュニティや企業が一丸となって、首都直下地震から住民のいのちを守ることができるように、地域の減災対策や共助の強化を支援する	6回	252人
	Bコース：災害からいのちを守り、その後の暮らしをつなぐために普段から備えておくべきことについて伝え、地域の中でリーダーとなる存在を育成する	1回	50人
江東5区大規模水害コース	江東5区（墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区）で発生が想定される大規模水害からいのちを守るために普段から備えておくべきことについて学ぶ	3回	125人
学校防災コース	児童・生徒が、自らのいのちを守り、周囲の人を助けられる存在になるための方法を学ぶ	50回	5,682人



地域における防災上の資源や危険箇所を確認する図上訓練



オンラインセミナー

## ● 防災教育事業指導者養成・育成のための研修

区分	実施日	内容	参加者
防災教育事業指導者養成研修	10/15～16 12/10～11	市民の防災・減災に関する知識・意識・技術を普及向上し、地域において災害発生時の応急対応にあたるリーダー層を育成するためのファシリテーターを養成する研修	赤十字ボランティア等 32人
防災基礎講座	1/21	各種災害のメカニズムや自助・共助の具体的な対策に関する知識を深めることで、指導者の指導力向上を図るための研修	赤十字ボランティア等 60人
防災教育事業支部独自プログラム研修	2/25	当支部独自プログラムの実施に必要な知識・技術の習得を目的とした研修	赤十字ボランティア等 20人

## ● 災害救護訓練

日本赤十字社は、国の指定公共機関として災害時の救護活動にあたる重要な役割を担っています。ブロック内の支部や管内医療施設との合同訓練を実施し、医療救護班を構成する救護要員の養成、強化を図るほか、東京都や他機関が開催する訓練に参加し、相互連携を強め、救護活動の総合力の向上にも力を注いでいます。

## ◆ 救護員養成のための訓練・研修

区分	実施日	内容	参加者
災害救護基礎研修	6/16～17、23～24	救護に関する講義・実技を通して救護要員の基礎的知識・技能を習得する研修	赤十字職員 40人 その他 2人
災害救護技能別研修 (こころのケア)	12/23	日本赤十字社のこころのケアの仕組みと救護員の役割を理解し、災害時に活動できるこころのケア要員を養成する研修	赤十字職員 23人 その他 2人
緊急自動車講習 (警視庁交通安全教育センター)	5/19、7/21、9/15、1/19	緊急走行に必要な知識と技術を習得するための講習	赤十字職員 8人
支部災害対応総合訓練	2/21	被災地支部の本部設置、運営訓練及び大規模災害時等に被災地に派遣される要員の救援対応能力向上のための訓練	赤十字職員 14人
一般緊急自動車運転技能者 課程 (自動車安全運転センター安全 運転中央研修所)	9/20～23	緊急自動車の安全運転に必要な知識のほか、緊急走行時に必要な知識と技術を身に付けるための講習	赤十字職員 3人
緊急車両実地走行訓練 (公益財団法人献血供給事業団)	7/1、8/5、2/17、3/10	緊急走行時の留意事項やマイクによる広報を体験し、走行技術・知識の向上を図るための訓練	赤十字職員 8人
災害救護技能別研修 (情報・通信研修)	1/30	緊急自動車の安全運転に必要な知識のほか、緊急走行時に必要な知識と技術を身に付けるための講習	赤十字職員 25人
こころのケア 指導者フォローアップ研修	1/12	こころのケア指導者を対象に、各施設でのこころのケア研修の実施状況等の共有を行い、新興感染症まん延下のこころのケア活動の留意事項を理解し、指導者としての実践能力向上を図るための研修	赤十字職員 20人
こころのケア研修	各施設による	日本赤十字社のこころのケアの仕組みと救護員の役割を理解し、災害時に活動できるこころのケア要員を養成する研修	赤十字職員 124人
救護員としての赤十字 看護師研修	各施設による	災害時に看護専門職としての知識、技術、態度を有し、的確に判断し行動できる「赤十字看護師」を養成するための研修	赤十字職員 128人

## « 医療救護班編成状況 »

■ 武藏野赤十字病院	…	<b>13 班</b>
■ 大森赤十字病院	…	<b>5 班</b>
■ 東京かつしか赤十字 母子医療センター	…	<b>2 班</b>
■ 日赤医療センター	…	<b>12 班</b>
※本社直轄施設		
<b>合計 32 班</b>		

救護班の標準編成	
医師	1人
看護師長	1人
看護師（または保健師 / 助産師）	2人
主事（事務管理要員）	2人

※必要に応じて薬剤師、臨床心理士 合計 6 人等を編成に加える。

## ※血液救護班

災害時に輸血用血液を医療機関に供給する救護班を都内の血液センターに 3 班編成しています。

## ◆ 本社や第 2 ブロック支部における訓練・研修

区分	実施日	内容	参加者
全国赤十字救護班研修	中止	日赤救護班の初動活動の強化と技術の向上を目的とした研修	—
日本赤十字社災害医療コーディネート研修	1/21 ~ 22	災害医療コーディネーションのための知識習得及びコーディネート活動に対する考え方の共通認識醸成を目的とした研修	赤十字職員 1 人
防災教育事業指導者 本社指導者養成研修	10/1 ~ 2 10/6 ~ 7	市民の防災・減災への知識・意識・技術を普及向上し、地域で災害発生時の応急対応にあたるリーダー層を育成するためのファシリテーターを養成する研修	赤十字職員 1 人
防災教育事業主任指導者 研修	5/10 11/8	防災教育事業の円滑な運営のため、指導者への技術的助言、指導者の養成、フォローアップにかかる研修の企画・運営等ができる要員を養成するための研修	赤十字職員 1 人
第 2 ブロック支部総合訓練 (神奈川県支部担当)	11/19 ~ 20	災害時の第 2 ブロック支部管内における広域支援活動を円滑に行い、統率のとれた災害救護活動を実践するための訓練	赤十字職員 16 人
第 2 ブロック被災地支部 災害対策本部運営訓練 (埼玉県支部担当)	中止	被災地支部の本部設置、運営訓練及び第 2 ブロック支部から被災地支部の災害対策本部に派遣する要員を対象とする本部設置・運営訓練	—
第 2 ブロック支部先遣 要員訓練 (千葉県支部担当)	1/16 (学科) 1/19 (実技)	災害時に被害状況等のアセスメント調査のため迅速に現地に派遣する要員を養成するための訓練	赤十字職員 6 人

## ◆ 東京都が実施する訓練および防災関係機関との連携を目的とした訓練等

区分	実施日	内容	参加者
東京都・品川区合同総合防災訓練	9/3~4、9/13	自治体及び地域並びに各防災関係機関の相互連携の強化を図り、地域防災力の向上を目的とした訓練	赤十字職員 33人 赤十字ボランティア 26人
国土館大学 & 日赤東京都支部合同訓練	中止	國士館大学との防災に関する協定に基づき、学生ボランティア及び地域住民並びに赤十字医療救護班・赤十字防災ボランティアが連携した合同訓練	—
東京都高圧ガス防災訓練	10/21	東京都環境局が高圧ガス取扱事業所に対して実施し、赤十字防災ボランティアが運営に協力する訓練	赤十字職員 1人 赤十字ボランティア 4人
日本災害医学会総会・学術集会 (日本災害医学会)	3/9~11	災害医療や防災業務に携わる組織や個人が参加する学会	赤十字職員 2人



災害時を想定した救護所での訓練

## ○ 救援物資備蓄状況

	前年度繰越数	R4 受入数	R4 払出数	繰越数
毛 布	35,818	0	986	34,832
バスタオル	11,173	2	0	11,175
安眠セット	5,554	0	0	5,554
緊急セット	10,267	2	0	10,269
安眠マット	5,740	0	57	5,683
ブルーシート	1,720	0	0	1,720
タオルケット	1,970	0	0	1,970

## ○ 地区・分区の災害救援用資材配備状況

※現保有数は R 4 新規整備された数を含む

	災害救護用車両		電動アシスト付自転車		6本柱テント		4本柱テント	
	現保有数	令和4年 新規整備	現保有数	令和4年 新規整備	現保有数	令和4年 新規整備	現保有数	令和4年 新規整備
千代田区								
中央区	1台		1台					
港区								
新宿区			3台	2台	12張		8張	
文京区	1台		4台	2台	1張			
台東区					19張		8張	
墨田区	1台				11張		13張	
江東区					4張			
品川区	1台		1台		5張		7張	
目黒区			2台	1台	10張		1張	
大田区			2台	2台	39張		21張	
世田谷区	1台		3台	2台	23張	1張	15張	
渋谷区					12張		7張	
中野区	1台		3台	2台	18張	1張	12張	
杉並区	1台						2張	
豊島区					8張	1張	7張	
北区	1台				32張		18張	
荒川区			1台					
板橋区					24張	1張	11張	
練馬区	1台				8張		2張	
足立区	1台		4台	2台	15張		13張	
葛飾区	1台				27張		10張	
江戸川区	1台		1台		2張		10張	
小計	12台	0台	25台	13台	270張	4張	165張	0張
八王子市	1台				28張	1張	9張	
立川市	2台				24張	1張		
武藏野市					13張		4張	1張
三鷹市	1台				17張		6張	
青梅市	1台				13張	1張		
府中市	1台		1台		19張			
昭島市	1台		3台	2台	12張		18張	
調布市	2台		1台	1台	11張		5張	2張
町田市	1台				18張		6張	1張
小金井市			1台	1台	4張		1張	
小平市	1台		2台		9張		7張	
日野市	1台						1張	
東村山市	1台				6張			
国分寺市	1台		1台		9張	1張	5張	
国立市	1台		1台	1台	4張		3張	
福生市	2台				8張			
狛江市	1台				14張		2張	
東大和市	1台				3張		3張	
清瀬市			2台		5張			
東久留米市	1台		2台	1台			1張	
武蔵村山市	2台				21張	1張	29張	
多摩市	1台				15張		1張	
稲城市	1台				31張			
羽村市	2台		1台		39張		7張	
あきる野市	2台				26張		4張	
西東京市	2台		1台	1台	10張		1張	
小計	30台	0台	16台	7台	359張	5張	113張	4張
西多摩	3台				35張	1張	15張	
大島	7台		1台	1台	13張		6張	
三宅	5台	1台			2張		3張	
八丈	2台				5張		3張	
小笠原	3台				11張			
小計	20台	1台	1台	1台	66張	1張	27張	0張
合計	62台	1台	42台	21台	695張	10張	305張	4張

	炊出し用釜		避難所用テント① (ポール組立式テント)		避難所用テント② (ワンタッチ式テント)		発動発電機	
	現保有数	令和4年 新規整備	現保有数	令和4年 新規整備	現保有数	令和4年 新規整備	現保有数	令和4年 新規整備
千代田区								
中央区	7台	1台						
港区								
新宿区	1台		2張		30張	30張	1台	
文京区	4台							
台東区	18台				11張		1台	
墨田区			260張		30張	30張		
江東区	5台		73張					
品川区					18張		1台	
目黒区	10台				1張		2台	1台
大田区	44台		348張		17張		18台	18台
世田谷区	3台	1台	19張	12張	5張	4張	2台	1台
渋谷区	14台							
中野区	16台		89張	15張	19張		10台	10台
杉並区			1張		14張	7張		
豊島区					1張			
北区	28台		49張	19張	20張		12台	12台
荒川区			37張					
板橋区	3台							
練馬区								
足立区	16台				1張		1台	
葛飾区	19台		19張		6張		6台	5台
江戸川区	17台				2張			
小計	205台	2台	897張	46張	175張	71張	54台	47台
八王子市	18台						2台	1台
立川市								
武蔵野市	4台				2張			
三鷹市	29台							
青梅市	10台							
府中市	16台				34張		8台	7台
昭島市	2台						9台	8台
調布市	36台						4台	2台
町田市	11台		101張	100張	31張	30張	1台	1台
小金井市	3台		20張		14張		4台	3台
小平市	2台				32張	30張	8台	8台
日野市	2台	1台			15張			
東村山市					11張			
国分寺市	6台		3張		1張		4台	4台
国立市	11台		44張		1張		1台	
福生市	12台				4張		4台	4台
狛江市	21台				13張			
東大和市	12台		116張		12張			
清瀬市			28張		3張	2張	3台	2台
東久留米市	3台						5台	4台
武蔵村山市	22台		13張		13張		1台	
多摩市	13台				9張		7台	6台
稲城市	24台		80張					
羽村市	10台		24張		10張		2台	2台
あきる野市	5台						1台	
西東京市	6台		20張		28張	27張	7台	7台
小計	278台	1台	449張	100張	233張	89張	71台	59台
西多摩	21台		20張		14張		6台	
大島	16台		70張	10張	45張		4台	3台
三宅	8台	1台	4張				2台	2台
八丈	12台		184張		10張			
小笠原	4台		10張	10張	8張	3張		
小計	61台	1台	288張	20張	77張	3張	12台	5台
合計	544台	4台	1,634張	166張	485張	163張	137台	111台

	LED投光器		エアーストレッチャー		ワンマンストレッチャー		ポータブルトイレ	
	現保有数	令和4年 新規整備	現保有数	令和4年 新規整備	現保有数	令和4年 新規整備	現保有数	令和4年 新規整備
千代田区			1台					
中央区	1台		2台					
港区								
新宿区	1台		1台		1台		11台	
文京区								
台東区	2台	2台	1台		1台		3台	1台
墨田区	1台							
江東区								
品川区	2台	2台			1台		11台	
目黒区								
大田区	2台	2台	1台		2台	1台	18台	
世田谷区	2台	2台	1台		2台	1台	3台	
渋谷区							1台	
中野区	2台	2台			3台	1台	10台	
杉並区	1台							
豊島区					3台			
北区	2台	2台	1台		2台	1台	12台	
荒川区			11台	3台				
板橋区								
練馬区	1台							
足立区	1台							
葛飾区	2台	2台	1台		17台		11台	5台
江戸川区	4台	2台						
小計	24台	16台	20台	3台	32台	4台	80台	6台
八王子市	2台	2台			1台		2台	
立川市								
武藏野市			2台	2台	2台	1台		
三鷹市	1台							
青梅市	3台	3台						
府中市	4台	3台	7台	7台	2台	1台		
昭島市	4台	3台						
調布市	3台	2台	3台	1台				
町田市					1台		1台	
小金井市	3台	3台					3台	1台
小平市					3台			
日野市							6台	
東村山市								
国分寺市	2台							
国立市	2台				1台	1台	1台	
福生市	1台							
狛江市	1台		3台	2台				
東大和市	4台	3台					3台	3台
清瀬市	3台	2台						
東久留米市	3台	3台						
武藏村山市	1台							
多摩市			7台	6台	3台	1台	7台	
稲城市								
羽村市	3台	3台	2台	2台	2台	1台	2台	
あきる野市	2台							
西東京市	1台				3台	1台	7台	
小計	43台	27台	24台	20台	18台	6台	32台	4台
西多摩	7台	4台	1台	1台			6台	6台
大島	8台	4台	1台		1台		9台	
三宅	2台	2台	1台	1台	2台	2台		
八丈	1台	1台	1台				5台	
小笠原								
小計	18台	11台	4台	2台	3台	2台	20台	6台
合計	85台	54台	48台	25台	53台	12台	132台	16台

## ● 地区・分区との連携強化の取組み

災害時の連携強化及び地区・分区における防災セミナー等赤十字事業の更なる推進のため、令和3年度から各地区・分区を訪問し、互いに顔の見える関係性を構築する「事業部門打ち合わせ」を実施しています。令和4年度は計17地区を訪問し、令和5年度までの3か年で都内全地区・分区を訪問する予定としています。

### [令和4年度実施状況]

実施日	訪問地区	備考
5/25	江戸川区	
6/21	荒川区	
6/21	台東区	
7/28	港区	
7/28	大田区	
8/18	新宿区	
8/18	北区	
9/21	杉並区	
9/21	中野区	

実施日	訪問地区	備考
10/12	国分寺市	
10/12	小金井市	
11/10	稲城市	
11/17	府中市	
12/13	あきる野市	
1/24	東久留米市	
2/8	八丈	オンライン開催
2/9	三宅	オンライン開催

## ● 救護ボランティア

東京都赤十字救護ボランティア活動推進協議会が中心となり、職員とともに被災地に赴き活動するほか、救援物資の搬出や義援金の受付等、後方支援活動も担っています。

また、平時には、赤十字災害救護ボランティア養成セミナーを実施しているほか、防災や災害救護に関する研修やセミナー、訓練等に参加し、災害対応能力の向上や技能維持に努めています。

### ◆ 赤十字災害救護ボランティア養成セミナー

令和4年11月26～27日の2日間で、救護ボランティアとして活動するうえで必要となる基礎的な知識と技術の習得を目的としたセミナーを開催しました。セミナーには12人が参加し、救護資機材の取扱いや無線通信演習、炊き出し体験等を行いました。



担架の組み立て方法を学ぶ



ハイゼックスを用いた炊き出し体験

## ● 臨時救護の実施

公共性の高いイベント等において、救護班や東京都看護赤十字奉仕団員を派遣して臨時救護所を設置し、傷病者の発生に備えています。

令和4年度実施状況	73件	活動日数 98日	取扱者数 200人	班数 99班	派遣人数 198人
-----------	-----	-------------	--------------	-----------	--------------

## ● 赤十字エイドステーション（帰宅困難者支援所）

首都直下地震等の大規模災害時、職場や学校等から徒歩で帰宅する際に支援を行うためのエイドステーションを設置しています。

設置場所	隣接道路	設置年月
調布駅北口	旧甲州街道	平成14年1月
立川市砂川町	五日市街道	平成15年11月
府中市白糸台	甲州街道	平成15年12月
西東京市田無神社	青梅街道	平成17年3月
狛江市和泉多摩川	世田谷通り	平成18年3月

## ● 令和4年度義援金受付状況

※令和4年4月1日～令和5年3月31日 支部着金分

国内災害義援金名称	件数	金額
平成30年7月豪雨災害義援金	2件	5,477円
令和2年7月豪雨災害義援金	2件	2,310円
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	6件	29,401円
令和4年7月大雨災害義援金	1件	263円
令和4年8月3日からの大雨災害義援金	6件	101,494円
令和4年台風第15号災害義援金	9件	165,604円
合計	26件	304,549円

日常生活の中で突然起こる病気やけがから大切な人のいのちと健康を守るため、講習を通じて、応急手当等の知識と技術の普及活動を行っています。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症のまん延により、人と人との接触が制限される等の制約がありましたが、「いのちと健康を守る」ための知識と技術を一人でも多くの方へ届けるため、対面講習を再開するとともに、オンライン講習を活用して社会情勢に合わせた講習普及に努めました。

### 対面講習の再開

新型コロナウイルス感染症の影響により、約2年間対面での講習実施が難しい状況が続いていましたが、十分な感染対策を講じながら対面講習を再開しました。

コロナ禍においても個人や団体の皆さまからのニーズに応え、かつ安心・安全に受講いただけるよう、受講者同士の距離を保つ、人との接触を伴う実技を最小限にする等の工夫を重ねて、「いのちと健康を守る」ための知識と技術を身につける講習を実施しました。

#### 【対面講習実績（前年度実施回数）】

- 救急法短期講習…………… 52回（21回）
- 水上安全法短期講習…………… 17回（2回）
- 幼児安全法短期講習…………… 31回（12回）
- 健康生活支援講習短期講習…… 37回（7回）



ソーシャルディスタンスを保って受講



マスクと手袋を装着して心肺蘇生を練習

## オンライン講習の継続実施

コロナ禍においても、応急手当等の知識と技術を普及するために実施してきたWEB会議ツールを活用したオンライン講習。自宅や会社・学校等から誰でも気軽に受講できることから、仕事や育児、介護等で対面での講習に参加が難しい方にも受講機会を提供することにつながりました。



オンラインによる講習普及

## 地域包括ケアシステム構築への取組み <健康生活支援講習>

地域での助け合い・支え合いの仕組みである地域包括ケアシステムの構築に向けた取組みとして、昨年に引き続きUR都市機構の賃貸住宅団地にて、出張献血と健康生活支援講習を実施しました。地域赤十字奉仕団にも協力いただき、災害時に役立つホットタオルの作り方やリラクゼーション等のプログラムを展開しました。



背中をさするリラクゼーションを体験

## 子どもの水の事故を防ぐ <水上安全法・幼児安全法>

水辺における子どもの事故防止を目的として、夏のプール開きに先駆け、幼稚園・保育園の教職員を対象としたプール活動における事故防止講習をオンラインで実施しました。講習ではプールでの監視方法や注意すべきポイントに加え、幼児に対する一次救命処置についても伝えました。

また、3年ぶりの開催となった小学校での着衣泳講習では、子どもたちが着衣の状態でプールへ入り、「呼吸をしながら浮いて待つ」方法を実際に体験しました。



小学校での着衣泳講習

## 河川での事故を防ぐ <水上安全法>

令和4年7月9日に青梅市の釜の淵公園にて、河川等の自然水域での事故防止を目的に河川講習を行いました。実際に河川で行う講習は3年ぶりで、小学生の親子等32人が参加しました。

体格に合ったヘルメットとライフジャケットの装着から始まり、川で流された際の姿勢や石や障害物等との衝突を回避する際の姿勢を練習したほか、親子が2人1組になって子どもが流された想定で救助体験も行いました。

また、当日は複数のメディアからの取材を受け、より多くの方に事故防止に関する啓発を行うこともつながりました。



川で流されたときの“仰向けの姿勢”を練習



ロープを投げて救助体験

## 指導員の養成

救急法等講習の普及体制の充実を図ることを目的に、各講習の指導員養成を実施しています。

令和4年度は救急法のほか、3年ぶりとなる幼児安全法の指導員養成講習を実施しました。新たに29人の指導員が誕生し、今後の活躍が期待されています。

### 新規指導員養成

救急法……………15人

幼児安全法……………14人



指導実習で伝え方を学ぶ

## ○ 講習実施状況

救急法	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
基礎講習	62回	1,227人	15回	210人	10回	126人
救急員養成講習	28回	655人	10回	168人	6回	90人
短期講習（対面）	52回	2,157人	21回	623人	22回	1,131人
短期講習（オンライン）	41回	3,870人	152回	17,097人	71回	4,281人
合計	183回	7,909人	198回	18,098人	109回	5,628人

水上安全法	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
救助員Ⅰ養成講習	5回	121人	0回	0人	0回	0人
短期講習（対面）	17回	2,970人	2回	21人	0回	0人
短期講習（オンライン）	7回	619人	12回	1,922人	4回	354人
合計	29回	3,710人	14回	1,943人	4回	354人

幼児安全法	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
支援員養成講習	12回	192人	1回	14人	0回	0人
短期講習（対面）	31回	732人	12回	210人	20回	197人
短期講習（オンライン）	28回	1,777人	48回	1,846人	17回	585人
合計	71回	2,701人	61回	2,070人	37回	782人

健康生活支援講習	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
支援員養成講習	6回	62人	1回	25人	0回	0人
短期講習（対面）	37回	1,006人	7回	164人	3回	63人
短期講習（オンライン）	0回	0人	13回	571人	17回	391人
合計	43回	1,068人	21回	760人	20回	454人

# 3

## 国際活動

### INTERNATIONAL ACTIVITIES

紛争やテロ組織等による非人道的な行為、突如として発生する大規模な災害、そして疾病や貧困など。世界には私たちの想像を超える苦しみを抱えながら生きる人々が存在しています。赤十字は 150 年を超える歴史に裏付けられる経験と 192 の国と地域に広がるネットワークを活用して、幅広い国際支援活動を展開しています。

#### 国際派遣

令和 4 年度は、東京都支部管内の赤十字医療施設から 4 名の職員を国際救援・開発協力活動へ派遣しました。

事業名	派遣先	派遣期間	所属施設	職種
パレスチナ赤新月社 医療支援事業（二国間）	レバノン共和国 ベイルート等	令和 4 年 3 月～8 月	大森赤十字病院	薬剤師
タイ・カンボジア・ ラオス・ベトナム国 クラスター事務所保健要員	タイ王国 バンコク等	令和 4 年 4 月～ 令和 5 年 3 月	大森赤十字病院	看護師
パレスチナ赤新月社 医療支援事業（二国間）	レバノン共和国 ベイルート等	令和 4 年 10 月～12 月	武蔵野赤十字病院	医師
バングラデシュ南部 避難民保健医療支援事業	バングラデシュ人民共和国 コックスバザール等	令和 4 年 10 月～ 令和 5 年 4 月	武蔵野赤十字病院	看護師

多くのパレスチナ難民が暮らすレバノン共和国へ派遣された武蔵野赤十字病院の渡邊医師は、10 月から 12 月までの 2か月半に渡り、パレスチナ赤新月社が運営する難民キャンプ内の病院で医療支援活動を行いました。渡邊医師は、救急外来で働く総合内科医へのレントゲン読影の教育や院内急変時の対応訓練を行ったほか、病院スタッフを対象に救急法の講習会を企画・実施し、現地の医療技術の向上に貢献しました。



レバノンへ派遣された渡邊医師



レントゲン読影等の教育を行う



人形を使った救急法のトレーニング

## ● NHK 海外たすけあい

災害や紛争、飢餓や病気等で苦しむ人々を救うため、毎年12月にNHKと共に実施している募金キャンペーンです。

皆さまからのあたたかいご支援は、紛争に伴う避難民への対応や、頻発する台風、サイクロン、干ばつ、洪水といった自然災害への対応、新型コロナウイルス感染症を含む疾病リスクへの対応等に役立てられます。

令和4年度募集総額

**787,088,711円**

### ◆東京都支部の募集実績

受付場所	件数	受付額
東京都支部・管内施設	230件	665,757円
NHK放送センター、NHK各事業所	113件	1,743,169円
地方銀行	2件	726,000円
農協・漁協	4件	636,030円
合計	349件	3,770,956円

### ◆支援状況

支援	割合
紛争に伴う難民・避難民等への対応	22.6%
頻発、激甚化する災害への対応	38.7%
人々のレジリエンスを高めるための取り組み	32.7%
NHK海外たすけあい募集資料等作製費	6.0%



街頭での募金活動

## ● 海外救援金

海外救援金は、国際赤十字・赤新月社連盟や現地の姉妹社を通じて紛争や災害で苦しむ人々の支援に使われます。

### 令和4年度に受け付けた海外救援金

※令和4年4月1日～令和5年3月31日支部着金分

海外救援金	件数	金額
中東人道危機救援金	2件	10,478円
バングラデシュ南部避難民救援金	1件	423円
アフガニスタン人道危機救援金	2件	2,821円
2022年アフガニスタン地震救援金	2件	10,272円
2022年パキスタン洪水救援金	10件	52,602円
ウクライナ人道危機救援金	154件	29,463,840円
2023年トルコ・シリア地震救援金	149件	21,518,557円
計	320件	51,058,993円

## 国際人道法の普及

ウクライナ人道危機を契機に、戦いという状況下でも人間として守るべき最低限のルール（ジュネーブ諸条約＝国際人道法）を普及するため、中高生向けに講演会を開いたほか、献血ルームでパネル展示を行いました。



紛争地域での活動を職員が語る



献血ルームでのパネル展示

## ● 安否調査

ジュネーブ条約に基づき、紛争や国交がない等の事情で連絡が取れない家族間の交信や、行方不明者の所在確認を関係機関と協力して行っています。

### 令和4年度調査依頼数

安否判明	安否不明	調査中	他支部へ追跡依頼	合計
0 件	0 件	0 件	—	0 件

# 4

## 赤十字ボランティア

RED CROSS VOLUNTEERS

日本赤十字社の活動は「困っている・苦しんでいる人の役に立ちたい」という思いを持ったたくさんのボランティアによって支えられています。令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、感染対策を講じて徐々に活動を再開し、地域や社会のニーズに合わせた幅広い活動を行いました。

### 赤十字クリーンプロジェクト

赤十字ボランティアの地域連携を目的に、駅・公園・地域のイベント会場等で清掃活動を行いました。

#### 参加者

実施奉仕団	9団
実施回数	18回
参加者数	187人



奉仕団員による清掃活動

### 災害時非常用携帯トイレの普及

災害時に水分摂取を控えること等により発生する災害関連死を防ぐため、奉仕団員による非常用携帯トイレの作成指導を通じて、災害時のトイレについての知識の普及を図りました。

#### 参加者

実施奉仕団	13団
実施回数	37回
参加者数	415人



非常用携帯トイレの作成を体験

## コンタクトレンズケース回収リサイクル

各家庭や地域で取り組むことのできる活動として、使用済みコンタクトレンズケースを回収しました。回収したケースは、コンタクトレンズ販売店を通じてリサイクルされます。

回収量 約 80 kg

## 赤十字ボランティアフェスティバル

令和5年3月11日に「なかのZERO 小ホール」にて、4年ぶりとなる赤十字ボランティアフェスティバルを開催しました。

各奉仕団が事例発表を行ったほか、仙台市荒巻赤十字奉仕団によるオンライン講演やコグニサイズ（認知症予防プログラム）、チャリティーバザーを実施し、奉仕団の種別や年代を超えた交流の機会となりました。



特色ある活動事例を発表

### 参加者

地域赤十字奉仕団  
特殊赤十字奉仕団  
青年学生赤十字奉仕団  
青少年赤十字メンバー  
東京都赤十字救護ボランティア活動推進協議会 等 約 400 人



ポスター展示による活動紹介

## ● 地域赤十字奉仕団

地区名	団員数
中央区	130人
港区	367人
新宿区	735人
文京区	442人
台東区	164人
品川区	2,832人
目黒区	605人
大田区	2,337人
世田谷区	1,661人
渋谷区	339人
中野区	1,364人
杉並区	44人
北区	1,390人
荒川区	1,714人
練馬区	1,770人
足立区	141人
葛飾区	318人
江戸川区	389人
八王子市	198人

地区名	団員数
立川市	150人
武蔵野市	539人
三鷹市	138人
府中市	149人
昭島市	107人
調布市	92人
町田市	97人
小金井市	26人
日野市	165人
国分寺市	19人
国立市	76人
狛江市	29人
東久留米市	31人
多摩市	62人
稲城市	34人
あきる野市	38人
西東京市	58人
大島町	526人
八丈町	113人

合計 38 団 19,389 人

### ◆赤十字奉仕団東京都支部委員会の活動

#### 赤十字奉仕団東京都支部委員会

	開催日	会場	参加者数	内 容
第1回	4月19日	資料送付	委員 245 人及び 各地区事務局に資料送付	1 役員改選について 2 令和3年度東京都支部事報告について 3 令和3年度奉仕団関係行事報告について 4 令和4年度東京都支部事業計画について 5 令和4年度奉仕団関係行事計画について 6 青少年赤十字100周年記念事業について
第2回	1月13日	資料送付	中止	令和4年度ボランティアフェスティバル打合わせについて

#### 赤十字奉仕団東京都支部委員会役員会・地域奉仕団委員長会議

	開催日	会場	参加者数	内 容
第1回	4月19日	文書審議	役員 10 人により文書審議	令和4年度役員改選について
第2回	11月18日	東京都支部	委員長 13 人 委員会役員 10 人 事務局職員 4 人	1 令和4年度主な奉仕団事業報告について 2 令和5年度奉仕団関係行事予定（案）について 3 活動状況の共有

日本赤十字社第2ブロック赤十字奉仕団委員長・担当課長会議（神奈川県支部当番）

開催日	会場	参加者
11月21日～22日	オンライン	赤十字奉仕団東京都支部委員会 副会長 東京都支部青少年・ボランティア課長

赤十字奉仕団中央委員会（本社主催）

開催日	会場	参加者
5月30日～31日	オンライン	赤十字奉仕団東京都支部委員会 会長

特殊奉仕団委員長会議

開催日	会場	参加者数	内 容
2月17日	東京都 支部	委員長 事務局 7人 3人	1 年度末・年度当初の事務手続きについて 2 令和4年度奉仕団事業の報告について 3 令和5年度事業計画について 4 各奉仕団からの活動報告 5 意見交換会

◆研修会・講習会

赤十字ボランティア基礎研修

	開催日	会 場	参加者数	内 容
第1回	9月7日	東京都支部	21人	・赤十字の誕生と歴史 ・赤十字マーク
第2回	9月13日		31人	・赤十字の基本原則 ・赤十字ボランティアの特徴
第3回	9月26日		48人	・活動の分野、種類

赤十字ボランティア・リーダーシップ研修

開催日	会 場	参加者数	内 容
10月3日	東京都支部	44人	・赤十字の基本原理 ・ジュネーブ条約の理解 ・ボランティア活動の進め方 ・活動の推進力としてのリーダー

青年学生赤十字奉仕団リーダーシップ研修会

開催期日	会場	参加者数	内容
3月17日	東京都支部	28人	1 リーダーシップについて 2 赤十字事業・基本原則・ジュネーブ条約について 3 赤十字ボランティアについて 4 ボランティア活動の進め方とリーダーシップについて 5 SNSの取り扱いについて 6 令和5年度事業計画・重点項目 7 事務手続きについて

## 健康生活支援講習短期講習

	開催日	会 場	参加者数	内 容
第1回	9月16日	東京都支部	40人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症予防</li> <li>・災害に備えて</li> </ul>
第2回	9月22日		43人	



避難所生活で役立つホットタオル作り

## 健康生活支援講習養成講習終了者対象フォローアップ

	開催日	会 場	参加者数	内 容
第1回	9月6日	東京都支部	21人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員養成講習の振り返り</li> </ul>
第2回	9月8日		19人	

## 健康生活支援講習普及員及び養成講習

	開催日	会 場	参加者数	内 容
第1回	10月14日	東京都支部	7人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における健康生活支援講習の普及</li> <li>・その他</li> </ul>
第2回	10月19日		6人	

## パラリンピック競技ボッチャ体験

	開催日	会 場	参加者数	内 容
第1回	6月20日	東京都支部	22人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボッチャの体験</li> </ul>
第2回	6月29日		35人	
第3回	7月14日		29人	

## ● 青年学生赤十字奉仕団

奉仕団名	団員数
跡見学園女子大学学生赤十字奉仕団	7人
駒澤大学学生赤十字奉仕団	33人
十文字学園女子大学学生赤十字奉仕団	25人
大東文化大学学生赤十字奉仕団	34人
拓殖大学ライフセイバーズ学生赤十字奉仕団	30人
玉川大学学生赤十字奉仕団	26人
中央大学学生赤十字奉仕団	1人
東京家政大学学生赤十字奉仕団	36人

奉仕団名	団員数
東京理科大学学生赤十字奉仕団	33人
日本赤十字看護大学学生赤十字奉仕団	57人
日本大学学生赤十字奉仕団	103人
日本薬科大学学生赤十字奉仕団	3人
明治大学学生赤十字奉仕団	27人
早稲田大学学生赤十字奉仕団	1人
東京都青年赤十字奉仕団	70人
合計 15団 486人	

### ◆青年学生赤十字奉仕団の活動

#### 青年学生赤十字奉仕団協議会運営委員会

	開催日	会場	参加者数	内 容
第1回	4月28日	オンライン	協議会役員 奉仕団役員 4人 20人	・自己紹介 ・活動報告 ・グループディスカッション「今年度やりたいボランティア活動について」 ・事務連絡
第2回	8月8日		協議会役員 奉仕団役員 2人 12人	・活動分析 ・グループディスカッション「自団の活動状況と課題について」 ・事務連絡
第3回	10月24日	東京都支部	協議会役員 奉仕団役員 2人 17人	・活動分析 ・グループワーク「活動の参加者を増やすために」 ・事務連絡
総会	12月14日		協議会役員 奉仕団役員 3人 17人	・役員改選 ・活動分析 ・グループワーク「今年度の振り返り」 ・JRC「寄せ書きプロジェクト」への参加 ・事務連絡

#### 青年学生赤十字奉仕団協議会主催研修会

開催日	会 場	内 容
6月8日		赤十字ボランティア基礎研修
6月15日		赤十字ボランティア基礎研修
7月7日		車いす＆ボッチャ体験会
9月15日		救急法短期講習
11月9日	東京都支部	手話研修会

## 日本赤十字社第2ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会（茨城県支部当番）

区分	開催期日	会場	参加者数	内容
第1回	6月26日	オンライン	協議会役員 担当職員	1 自己紹介 2 青年赤十字奉仕団全国協議会報告 3 赤十字ユース委員会について 4 各都県活動報告 5 協議 6 照会事項確認
第2回	11月26日		協議会役員 担当職員	1 青年赤十字奉仕団全国協議会報告 2 分科会 ・青年赤十字奉仕団代表者部会 ・支部担当者部会 3 全体会（分科会の報告） 4 照会事項確認

### ◆プロジェクトチームの活動

青年学生赤十字奉仕団員であれば、誰でも参加できる専門チームで、3つのプロジェクトチームが組織されています。

#### ・災害対策プロジェクトチーム

災害対応訓練やワークショップへの参加、減災、防災に関する知識と技術の普及のための講習会を開催しています。日赤の災害救護活動に精通した職員を講師として、災害時の医療をテーマに研修会を開催しました。

#### ・Global Project Team

「NHK海外たすけあい」キャンペーンの推進と、紛争や災害及び国際救援、開発協力に関する勉強会を行っています。日本赤十字社が行っているルワンダのレジリエンス強化事業に参加し、ルワンダの子どもたちを支援する活動計画を立案しました。令和4年度は、青少年赤十字の加盟校の児童にルワンダの子どもたちの暮らしを伝える「ルワンダ講師派遣」や、日本とルワンダの小学生がオンラインで交流するイベントを実施しました。



ルワンダ講師派遣の様子

#### ・JRC X Friendship プロジェクトチーム

青少年赤十字との交流事業の企画や、青少年赤十字の行事をサポートしています。国際や視覚障がいをテーマとした青少年赤十字メンバーとの交流を実施しました。

## ● 特殊赤十字奉仕団

番号	奉仕団名	団員数
1	東京安全赤十字奉仕団	124人
2	東京都特殊救護赤十字奉仕団	28人
3	三鷹市特殊赤十字奉仕団	32人
4	視覚障害者援護赤十字奉仕団	62人
5	町田市点訳赤十字奉仕団	29人
6	東京指圧救護赤十字奉仕団	48人
7	東京都看護赤十字奉仕団	74人
8	ハンドケア・ビューティケア赤十字奉仕団	53人
9	大田区訪問介護赤十字奉仕団	23人
10	JAL労働組合客乗支部赤十字奉仕団	7人

番号	奉仕団名	団員数
11	東京都青少年赤十字賛助奉仕団	79人
12	東京都ビューティーケア赤十字奉仕団	36人
13	東京都JHSA赤十字奉仕団	17人
14	朗読赤十字奉仕団	75人
15	東京都ノルディックウォーキング赤十字奉仕団	12人
16	東京都赤十字二輪奉仕団	19人
17	東京都赤十字写真奉仕団	30人
18	東京都隊友救護赤十字奉仕団	35人
合計		783人

青少年赤十字（JRC）は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、いのちと健康を大切にし、地域社会や世界のために奉仕する心、そして世界の人々と分かり合う姿勢を育むことを目的として、日常生活や学校教育の中で様々な活動を展開しています。

1922年（大正11年）に滋賀県で発祥した日本の青少年赤十字は、令和4年度に100周年を迎えました。東京都支部では、これまでの青少年赤十字の歴史を振り返るとともにこれからの未来に向けて、創設100周年を記念した事業を実施しました。

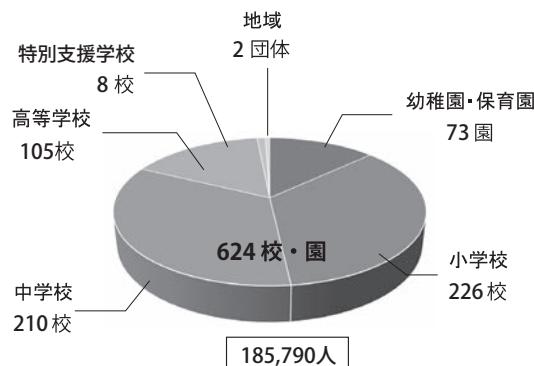
### ○ 加盟登録状況

青少年赤十字は、学校や園がそれぞれの教育、保育方針に基づいて自主的に活動する「加盟登録制度」を採用しています。また、学校や園の実情に合わせて、指導者となる先生方の自由裁量により、主体的に活動を実践していただいているいます。

令和4年度末現在で、

東京都内の**624校（園）**が加盟しており、

**185,790人** のメンバーが活動に参加しています。



令和4年度		令和3年度		令和2年度		
	加盟校数		生徒数		生徒数	
幼稚園・保育園	73園	5,275人	76園	5,843人	77園	6,510人
小学校	226校	97,322人	226校	97,236人	222校	94,044人
中学校	210校	54,940人	212校	55,709人	214校	56,365人
高等学校	105校	26,903人	105校	25,592人	105校	25,099人
特別支援学校	8校	1,326人	8校	1,301人	8校	1,339人
地域	2団体	24人	3団体	47人	3団体	47人
合計	624校	185,790人	630校	185,728人	629校	183,404人

## ■ 加盟登録式

令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
14 件 (資料・映像提供)	10 件 (資料・映像提供)	派遣中止 (資料・映像提供)

## ■ その他 (国際救援講演、1円玉募金贈呈式等)

令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
22 件	30 件	5 件

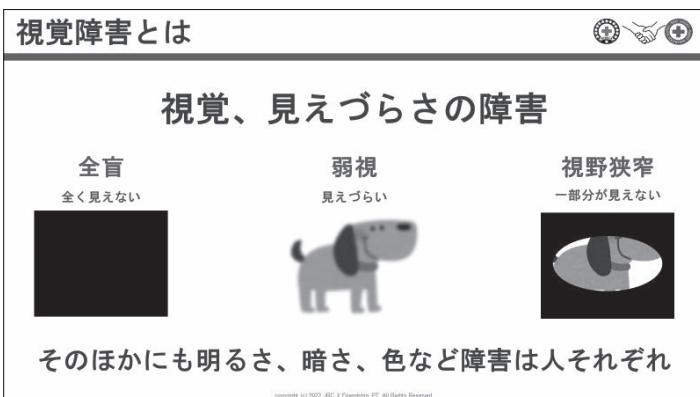
## ● メンバー連絡協議会

青少年赤十字に加盟している学校や園の生徒、園児たちをメンバーと呼んでいます。

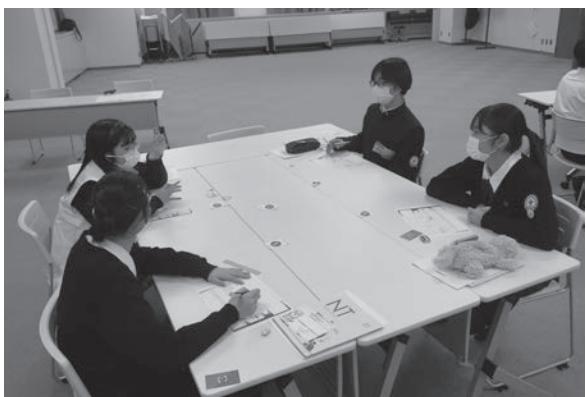
東京都支部は、中学校・高等学校のメンバーで構成される協議会を開催して、メンバー同士の親睦を図りながら、目的の共有や青少年赤十字の活動を向上させるための協議を行っています。

[会議等]

開催日	参加者数	会場	内 容
5月14日	50人	オンライン	合同登録式（参加校紹介・活動報告、赤十字について）他
6月18日	42人	オンライン	国際人道法について
9月17日	26人	オンライン	JRC × RCY 交流 Cross Project ～大学生と学ぶ、ルワンダに生きる子どもたち～
11月12日	36人	オンライン	JRC × RCY 交流 Cross Project ～視覚障がいについて知ろう～
1月28日	41人	東京都支部／ オンライン	防災・減災について、ジレンマゲーム
3月11日	51人	なかの ZERO 小ホール	ボランティアフェスティバル
計	6回	246人	



インタビューと疑似体験から視覚障がいについて学ぶ



ゲームを通じて災害時の行動を考える

## ● 東京都青少年赤十字指導者協議会

青少年赤十字の直接の指導者である学校や幼稚園の教諭、保育士等が相互の活動における情報や研究結果等を共有し、よりよい指導を行うために協議会を組織しています。

[会議等]

名 称	開催日	参加者数
第1回運営委員会	6月2日	10人
第2回運営委員会	10月27日	12人
総 会	書面開催	—

[全国 / 第2ブロックの会議への参加]

名 称	開催日	参加者数
青少年赤十字全国指導者協議会総会	6月29日	1人
第2ブロック青少年赤十字指導者協議会・研究集会	8月19日	3人

## ● 各種研修会の開催

[青少年赤十字指導者研修会（新任指導者研修）]

開催日	会場	参加者数	内容
中止	東京都支部	—	青少年赤十字について 活動校による事例発表 赤十字が提供できるメニュー

[リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成研修]

主催	開催日	会場	参加者数	内容
本社	中止	国立オリンピック記念 青少年総合センター	—	リーダーシップ・トレーニング センターの指導者として必要な 知識、技術を学ぶ
東京都支部		高尾の森 わくわくビレッジ		青少年赤十字の理解と実践 指導技法の習得を目指した学習 各種体験学習 他

[防災教育教材「まもるいのちひろめるぼうさい」指導者研修会]

開催日	会場	参加者数	内容
8月22日 ～9月5日	オンライン (ホームページ上で実施)	—	教材紹介・配付

[指導主事対象青少年赤十字研究会]

開催日	会場	参加者数	内容
開催なし	—	—	講演、事例発表、分科会 等

## ● メンバー対象プログラム

[リーダーシップ・トレーニング・センター（メンバー対象）]

校種	開催日	会場	参加者数	内容
小学校	中止 (代替事業を実施)	高尾の森 わくわくビレッジ	-	赤十字 / 青少年赤十字の学習
中学校				福祉体験 / 健康安全 国際理解プログラム
高等学校				フィールドワーク 他

[国際交流集会]

主催	開催日	手法	参加者数	内容
本社	10月2日 11月5~6日	オンライン	9人	「気候変動～未来と世界をまもる行動をともに～」をテーマに27の国と地域のユースがオンラインでディスカッション



画面を通して自国の文化を紹介

[青少年赤十字スタディ・プログラム]

主催	開催日	手法	参加者数	内容
本社	3月21日、25日	オンライン	2人	社会的包摶について、多様性を尊重した共生社会の実現について

[家族で！赤十字防災デー]

(リーダーシップ・トレーニング・センターの代替事業として実施)

校種	開催日	手法	参加者数	内容
小学校	7月30日	オンライン	5人	ボランティアや防災についての学習、携帯トイレの実技、グループワーク



非常用トイレの使い方を体験

[JRC リーダーシップ・チャレンジ]

(リーダーシップ・トレーニング・センターの代替事業として実施)

校種	開催日	手法	参加者数	内容
中学校	8月15日～17日	オンライン	33人	実践目標に沿ったプログラムの実施、他校メンバーとの交流、リーダーシップについての学習

[JRC ワークショップ×チャレンジ]

(リーダーシップ・トレーニング・センターの代替事業として実施)

校種	開催日	手法	参加者数	内容
高等学校	8月2日～4日	オンライン	52人	ワークショップ（ボランティア活動）の企画、実施、発表
	10月29日			

## ● 国際理解・親善

### ◆ 国外の教育等支援事業のための募金活動

青少年赤十字メンバーが「1円玉募金」を集めたり、使用済み切手やプリペイドカードを収集し換金することにより資金を調達したりして、2か国（ネパール、バヌアツ）の姉妹社が実施する教育・衛生環境の改善等の活動を支援しています。

#### ・1円玉募金

令和4年度	令和3年度	令和2年度
28件	29件	14件
261,925円	341,734円	135,573円

#### ・使用済み切手・プリペイドカード

令和4年度	令和3年度	令和2年度
27件	83件	26件
13,500円	11,000円	5,500円

### ◆ 第18回ソウル・北京・東京青少年赤十字交流プログラム

三首都交流事業の一環として、青少年赤十字メンバー（中・高生）を対象とした交流事業を実施しています。

赤十字を接点として集まった3か国のメンバーが国や文化を越えて交流し、相互理解を促すとともに国際的な視点を成長させることを目指しています。

開催日程

開催地

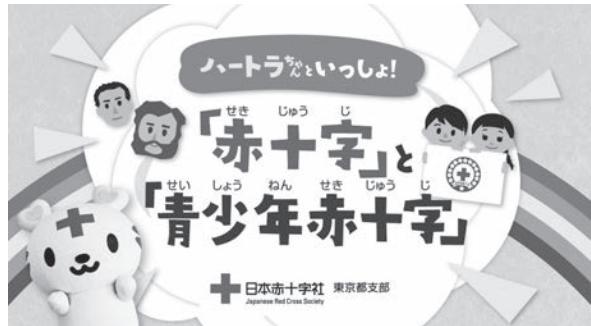
中止

参加者

## 青少年赤十字創設 100 周年記念事業

### ◆ ハートラちゃんといっしょ！「赤十字」と「青少年赤十字」動画の作成・公開

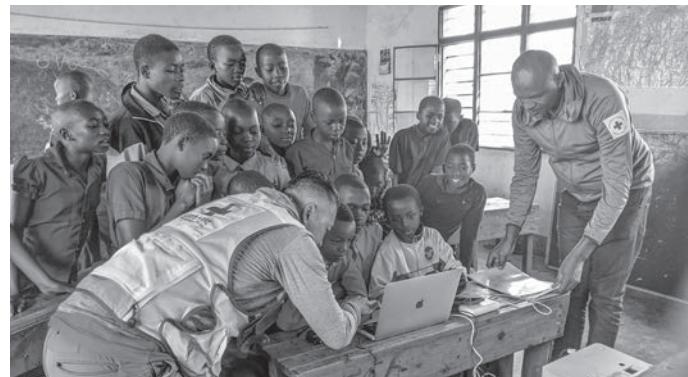
各校・園内でより手軽に日頃から赤十字、青少年赤十字に親しみをもち、理解を深めてもらうことを目的に作成、公開しました。



アニメーションで理解を促進

### ◆ ルワンダ子ども支援募金

ルワンダ赤十字社と協力しルワンダの子どもたちの教育支援を目的とした「ルワンダ子ども支援募金」を JRC 加盟校・園で実施しました。その活動の一環として、学校で Global Project Team (青年学生赤十字奉仕団の中の有志メンバー) による勉強会を実施したり、都内の JRC メンバーがルワンダの子どもたちとオンラインで交流したりしました。また、「100 年後にみたい世界」をテーマに日本とルワンダで協力し、よせがき旗を作成しました。



日本とルワンダの小学生がオンラインで交流

募金実績

35 校(園) / 913,706 円

集まった資金は令和 5 年度より開始される、ルワンダの子どもたちが学校に行くための現地プロジェクトに活用されます。

## ◆ オンラインミーティング TOKYO、よせがきプロジェクト

### ・オンラインミーティング TOKYO

創設 100 周年をお祝いし、「思いやり」と「やさしさ」のバトンをつないでいくため、高校生の役員メンバーが主体となりオンラインイベントを実施しました。他校のメンバーとの交流企画や、JRC 出身の先輩からのメッセージ動画の上映、「ルワンダ子ども支援募金」の途中経過報告や現地駐在員の生出演など、充実した内容となりました。



ルワンダ現地駐在員へのインタビューを生配信

### ・よせがきプロジェクト

『これまでの 100 年を、次の 100 年につないでいくために、私たちができることはなんだろう？』  
「理想とする未来や世界」と、「そのために自分ができること」をメッセージという形で募集し、1,000 人以上のメンバーからメッセージが集まりました。



メンバーから集まったメッセージ

## ◆ 100 周年記念誌『あゆみ』の作成

これまでの 100 年間を振り返り、今後の青少年赤十字活動のさらなる発展につなげることを目的とした記念誌を作成しました。



これまでの歴史やインタビューを掲載

## ● 赤十字運動月間における PR 活動

昨年度に引き続き、東京都支部のある新宿区内の新宿大通り商店街、新大久保商店街において、赤十字フラッグを掲揚し、5月の赤十字運動月間を PR しました。



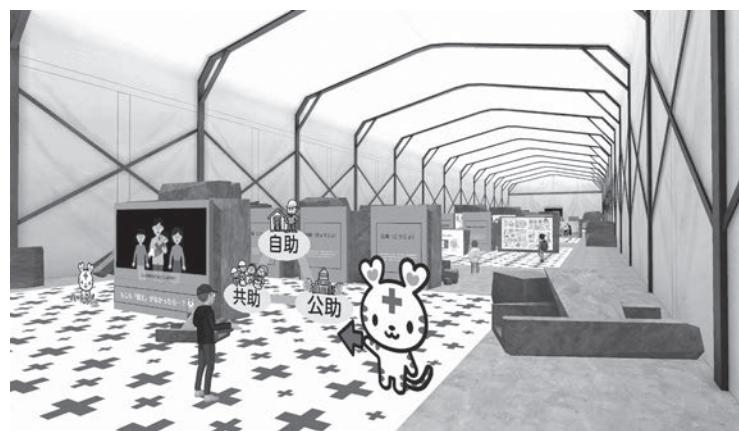
赤十字フラッグの掲揚

## ● 「ACTION! 防災・減災」

日本赤十字社では令和2年度から「防災・減災への備え」をコンセプトとした「ACTION! 防災・減災 - 命のために今うごく -」を展開しています。東京都支部では、令和4年度は「あ！地震。あなたならどう脱出する？メタバース地震体験」と題した、スマホアプリ「REV WORLDS」のVR（バーチャル・リアリティー）コミュニケーション・プラットフォーム内で、アバターを使って遊んで学べるコンテンツを展開しました。避難グッズをどれだけ短い時間で集めて避難できるかを競うゲーム、日ごろの備えについて知識を深める学習エリア等があり、一人でも多くの方に「防災・減災」に関する意識と知識を持ってもらえるよう呼びかけました。



自身のアバターで避難グッズを探す



自助・共助・公助について学ぶエリア

## ○ NT（広報誌）の発行

季刊広報誌としてNT（Nisseki Tokyo）を発行し、四半期ごとの赤十字事業紹介のみならず、防災に活用できるアウトドアの知恵、デジタル技術に関する基礎知識、気候変動についてなど、幅広く提供しました。



## ○ その他広報活動

より多くの方々に赤十字の事業内容についてご理解いただけるよう、ホームページやSNS（Facebook、Twitter、Instagram、YouTube）を活用した活動の周知、また効果的なプレスリリースによるマスメディアへの露出機会の創出など、積極的な広報活動に努めました。

## ● 地域赤十字奉仕団による地区イベント参加

[地域祭り等への参加・協力]

開催日	行事	会場	奉仕団
5月4～5日	手作り市民祭り	城山公園	稻城市
5月15日	健康フェスタ	エスフォルタアリーナ	八王子市
8月1～26日	平和展	三鷹市役所	三鷹市
8月6～7日	せたがやふるさと区民祭り	国士館大学キャンパス	世田谷区
10月8～9日	みなと区民まつり	増上寺	港区
10月22日	環境フェスタ国立	国立市民芸術ホール	国立市
11月6日	くにたち市民秋まつり	大学通り	国立市
11月28日～12月2日	赤十字パネル展	目黒区役所ロビー	目黒区
11月19日	救護フェスタ	中野区立総合体育館	中野区
2月11日	中央区雪まつり	あかつき公園	中央区
3月22～23日	3.11を忘れない	昭島市役所	昭島市
3月25～26日	府中市民さくら祭り	府中公園	府中市

※通知があった行事を記載

## ● 地域赤十字奉仕団による赤十字サポートーキャンペーン

開催日	場所	奉仕団
5月1日	京王線 高幡不動駅 JR 日野駅 JR 豊田駅	日野市
5月2日	JR 国立駅	国立市
5月6日	JR 阿佐ヶ谷駅	杉並区
5月7日	JR 三鷹駅 JR 武蔵境駅 JR 吉祥寺駅	武蔵野市
5月7日	JR 国分寺駅	国分寺市
5月8日	京王井の頭線 三鷹台駅 JR 三鷹駅 JR 武蔵境駅	三鷹市
5月8日	JR 立川駅	立川市
5月10日	JR 武蔵小金井駅 JR 東小金井駅	小金井市
5月13日	数寄屋橋公園	中央区

## ● 地域赤十字奉仕団による赤十字運動月間キャンペーン

開催日	場所	内容	奉仕団
5月1～15日	簗崎町出張所	パネル展	新宿区簗崎町分団
5月6～11日	港区役所1Fロビー		港区
5月10日	杉並区役所1Fロビー		杉並区
5月13～20日	昭島市役所ロビー		昭島市
5月14日	東久留米市役所ロビー		東久留米市
5月17～20日	立川市役所1Fロビー		立川市

## ● 東京都赤十字大会

ボランティア活動や、多額のご寄付等により、赤十字事業に一定のご協力をいただいた個人・法人を顕彰させていただくため、毎年10月に開催しています。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者数を制限し、規模を縮小して実施しました。



3年ぶりに明治神宮会館で開催

		令和4年度	令和3年度	令和2年度
金色有功章	社資功労受章者	300人	312人	307人
	業務功労受章者	307人	237人	353人
銀色有功章	社資功労受章者	498人	511人	471人
	業務功労受章者	290人	364人	438人
社長感謝状	社資功労受章者	319人	346人	260人
	業務功労受章者	86人	113人	63人
支部長感謝状	業務功労受章者	1,270人	1,354人	1,512人
血液センター所長感謝状		8人	7人	12人
合計		3,078人	3,244人	3,416人

## ● 会員（社員）の登録状況

東京都支部の活動は、年額2,000円以上のご協力をいただく個人及び法人の会員により支えられています。

令和4年度		令和3年度		令和2年度	
個人	法人	個人	法人	個人	法人
34,917人	7,712社	34,263人	8,578社	30,432人	8,670社

※社員制度の見直しにより、平成29年4月1日から社員を会員と呼称変更し、2,000円以上のご協力者で会員への登録を希望された方を会員としています。

## ● 活動資金の募集

### ◆ 活動報告と協力依頼のダイレクトメール

都民と都内の法人の皆さんに、東京都支部の活動を広く周知し協力を依頼するため、定期的にダイレクトメールを発送しています。

[個人向け協力依頼]

	発送時期	発送数
第1回	4月	80,000件
第2回	7月	25,000件
第3回	9月	9,500件
第4回	11月	35,500件
第5回	3月	13,000件
合計	—	163,000件

[法人向け協力依頼]

	発送時期	発送数
第1回	4月	100,000件
第2回	7月	13,000件
第3回	9月	10,000件
第4回	9月	3,000件
第5回	11月	43,000件
第6回	2月	25,000件
第7回	3月	5,000件
第8回	3月	4,000件
合計	—	203,000件

◆ 活動資金の実績額

令和4年度は、目標額の175.3%となる2,104,000,267円のご寄付をいただきました。

	地区	一般	法人	合計
令和4年度目標額	615,950,000円	374,050,000円	210,000,000円	1,200,000,000円
令和4年度実績額	592,267,361円	1,108,185,893円	403,547,013円	2,104,000,267円
目標達成率	96.2%	296.3%	192.2%	175.3%

[実績額内訳]

			実績額	目標額	達成率
令 和 4 年 度	地 区	区	467,027,939円	445,593,000円	104.8%
		市	118,249,804円	164,761,000円	71.8%
		町村	4,899,728円	5,596,000円	87.6%
		地区不特定	2,089,890円	—	—
		小計	592,267,361円	615,950,000円	96.2%
	支 部	一般	1,108,185,893円	374,050,000円	296.3%
		法人	403,547,013円	210,000,000円	192.2%
		小計	1,511,732,906円	584,050,000円	258.8%
	合計		2,104,000,267円	1,200,000,000円	175.3%
	令 和 3 年 度	区	502,098,507円	445,593,000円	112.7%
		市	104,350,482円	164,761,000円	63.3%
		町村	4,893,732円	5,596,000円	87.5%
		地区不特定	188,500円	—	—
		小計	611,531,221円	615,950,000円	99.3%
		一般	1,052,980,603円	374,050,000円	281.5%
		法人	446,382,501円	200,000,000円	223.2%
		小計	1,499,363,104円	574,050,000円	261.2%
		合計	2,110,894,325円	1,190,000,000円	177.4%
		区	436,170,166円	445,593,000円	97.9%
令 和 2 年 度	地 区	市	117,934,107円	164,761,000円	71.6%
		町村	5,670,240円	5,596,000円	101.3%
		地区不特定	865,650円	—	—
		小計	560,640,163円	615,950,000円	91.0%
		一般	1,205,825,089円	394,050,000円	306.0%
	支 部	法人	546,188,454円	200,000,000円	273.1%
		小計	1,752,013,543円	594,050,000円	294.9%
		合計	2,312,653,706円	1,210,000,000円	191.1%

## [地区別実績]

地区名	実績額	(実績額内訳)					目標額	達成率
		地区募集額	預金口座振替	クレジットカード	Pay決済	その他		
千代田区	11,076,301	1,640,960	1,469,000	7,966,341	0	0	2,910,000	380.6%
中央区	8,832,395	1,728,500	1,806,000	5,297,895	0	0	4,835,000	182.7%
港区	33,725,960	3,161,391	3,401,000	27,139,569	0	24,000	8,763,000	384.9%
新宿区	12,238,954	4,279,378	2,862,000	5,093,576	4,000	0	11,236,000	108.9%
文京区	12,801,700	6,929,920	985,000	4,886,780	0	0	14,629,000	87.5%
台東区	10,924,396	5,188,021	1,447,000	4,289,375	0	0	8,005,000	136.5%
墨田区	9,942,394	5,409,724	758,000	3,771,670	0	3,000	11,061,000	89.9%
江東区	15,791,169	10,249,272	1,697,000	3,843,897	0	1,000	16,420,000	96.2%
品川区	15,688,267	8,663,336	2,223,000	4,790,931	6,000	5,000	20,678,000	75.9%
目黒区	19,379,849	14,960,849	1,398,000	3,021,000	0	0	18,276,000	106.0%
大田区	43,364,696	36,169,797	2,436,000	4,743,899	0	15,000	43,367,000	100.0%
世田谷区	45,395,671	28,040,505	4,930,000	12,424,666	500	0	58,917,000	77.1%
渋谷区	21,086,402	7,790,054	1,179,000	12,017,348	0	100,000	16,818,000	125.4%
中野区	23,502,748	18,571,844	1,034,000	3,886,904	0	10,000	19,958,000	117.8%
杉並区	19,023,194	9,182,816	2,350,000	7,488,878	1,500	0	27,689,000	68.7%
豊島区	11,432,593	7,782,093	1,207,000	2,443,500	0	0	14,284,000	80.0%
北区	24,808,006	21,549,371	1,761,000	1,495,483	2,152	0	19,150,000	129.5%
荒川区	11,572,039	9,366,039	840,000	1,365,000	1,000	0	9,466,000	122.2%
板橋区	17,970,790	9,934,202	1,963,000	6,073,088	500	0	22,380,000	80.3%
練馬区	14,756,429	7,188,629	3,178,000	4,389,000	800	0	30,054,000	49.1%
足立区	34,005,656	21,761,366	2,965,000	9,279,290	0	0	23,751,000	143.2%
葛飾区	25,821,968	22,445,468	1,132,000	2,244,000	500	0	21,202,000	121.8%
江戸川区	23,886,362	17,589,971	2,293,000	4,002,391	1,000	0	21,744,000	109.9%
小計	467,027,939	279,583,506	45,314,000	141,954,481	17,952	158,000	445,593,000	104.8%
八王子市	15,988,609	10,691,809	1,446,000	3,850,800	0	0	17,509,000	91.3%
立川市	9,022,803	7,473,747	735,000	809,056	5,000	0	6,628,000	136.1%
武蔵野市	8,389,056	4,644,219	608,000	3,116,837	0	20,000	8,947,000	93.8%
三鷹市	12,448,914	5,041,914	565,000	6,841,000	1,000	0	9,052,000	137.5%
青梅市	3,800,587	2,672,587	711,000	417,000	0	0	4,980,000	76.3%
府中市	4,194,018	2,422,618	567,000	1,152,300	0	52,100	9,208,000	45.5%
昭島市	2,489,083	2,023,083	79,000	387,000	0	0	4,371,000	56.9%
調布市	13,210,142	5,462,442	1,257,000	6,360,000	1,000	129,700	10,663,000	123.9%
町田市	6,103,450	3,128,550	1,330,000	1,644,900	0	0	14,975,000	40.8%
小金井市	4,216,359	2,385,995	700,000	1,115,364	0	15,000	5,964,000	70.7%
小平市	3,924,883	2,410,883	744,000	770,000	0	0	7,706,000	50.9%
日野市	2,822,163	1,419,991	306,000	1,096,172	0	0	6,941,000	40.7%
東村山市	2,434,070	1,566,070	365,000	453,000	0	50,000	5,972,000	40.8%
国分寺市	4,379,300	2,414,900	587,000	1,377,400	0	0	5,382,000	81.4%
国立市	3,980,160	3,273,235	120,000	586,925	0	0	3,771,000	105.5%
福生市	2,557,200	2,042,200	42,000	473,000	0	0	3,306,000	77.4%
狛江市	721,339	108,339	225,000	388,000	0	0	3,782,000	19.1%
東大和市	1,024,160	442,160	181,000	396,000	0	5,000	3,227,000	31.7%
清瀬市	535,816	237,816	98,000	200,000	0	0	3,018,000	17.8%
東久留米市	2,025,416	1,246,416	598,000	181,000	0	0	5,103,000	39.7%
武蔵村山市	572,517	492,517	24,000	56,000	0	0	2,556,000	22.4%
多摩市	2,293,767	589,017	694,000	1,010,750	0	0	4,636,000	49.5%
稲城市	3,020,054	2,261,054	351,000	408,000	0	0	2,564,000	117.8%
羽村市	2,427,646	2,188,646	45,000	194,000	0	0	1,934,000	125.5%
あきる野市	3,514,641	3,267,641	105,000	142,000	0	0	3,402,000	103.3%
西東京市	2,153,651	797,188	666,000	690,463	0	0	9,164,000	23.5%
小計	118,249,804	70,705,037	13,149,000	34,116,967	7,000	271,800	164,761,000	71.8%
西多摩	2,241,810	2,072,810	149,000	20,000	0	0	2,632,000	85.2%
大島	2,004,843	1,977,843	0	27,000	0	0	1,350,000	148.5%
三宅	106,000	96,000	10,000	0	0	0	321,000	33.0%
八丈	359,575	239,575	120,000	0	0	0	1,075,000	33.4%
小笠原	187,500	187,500	0	0	0	0	218,000	86.0%
小計	4,899,728	4,573,728	279,000	47,000	0	0	5,596,000	87.6%
地区不特定	2,089,890	0	151,000	1,938,890	0	0	—	—
合計	592,267,361	354,862,271	58,893,000	178,057,338	24,952	429,800	615,950,000	96.2%

## ◆ 様々な方法によるご協力

活動資金は、郵便局・銀行での振り込み、自動口座引き落としやクレジットカードでの決済、ホテルや店舗等へのチャリティーボックスの設置、香典返しに代えての寄付、遺贈・相続財産の寄付等、様々な方法によってご寄付いただきました。

	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	数	金額	数	金額	数	金額
チャリティーボックスでの寄付	111件	229千円	125件	1,568千円	85件	2,135千円
香典返しに代えての寄付	3件	460千円	4件	500千円	9件	1,160千円
遺贈・相続財産の寄付	16件	78,500千円	36件	253,155千円	35件	172,814千円

## ◆ 国家表彰

年度内に一定以上の金額を活動資金にご協力いただいた個人・法人に対しては、その金額に応じて、国の表彰・褒章制度である「厚生労働大臣感謝状」や「紺綏褒章」の授与申請を行っています。令和4年度は、申請により個人74人、法人14社が受章しました。

	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	個人	法人	個人	法人	個人	法人
厚労大臣感謝状	30人	2社	23人	5社	64人	4社
紺綏褒章	44人	12社	36人	14社	24人	7社
合計	74人	14社	59人	19社	88人	11社

また、これ以外にも、日本赤十字社独自の表彰制度により、「東京都赤十字大会」において、多額のご協力をいただいた個人・法人に対し「有功章」や「感謝状」を授与しています。詳細は、41ページ「東京都赤十字大会」をご参照ください。

## 医療事業

### ● 医療事業体制の概況

都内3か所の赤十字医療施設は、地域における中核的、公的医療機関として、救急医療、へき地専門診療等に取り組むとともに、災害時には国内外の被災地に医師・看護師を派遣し、救護活動の拠点となる機能も備えています。

区分	許可病床数	診療科数	患者数(延数)		病床利用率
			入院	外来	
武藏野赤十字病院	611床	33科	196,110人	284,305人	89.8%
大森赤十字病院	344床	25科	91,748人	146,397人	73.1%
東京かつしか赤十字母子医療センター	104床	2科	28,139人	39,507人	78.7%

### ● へき地専門診療

地域において確保困難な専門診療を実施することにより、地域医療の確保と充実を図ることを目的に実施しています。

	実施期間	診療科目	受診者数	派遣施設	派遣人員
利島村	6月2日～5日	眼科	101人	武藏野赤十字病院	2人
	6月9日～12日	整形外科	63人	武藏野赤十字病院	2人
三宅村	6月1日～3日	整形外科	35人	武藏野赤十字病院	1人
	11月30日～12月2日	整形外科	36人	武藏野赤十字病院	1人
	2月1日～3日	整形外科	27人	武藏野赤十字病院	1人
御藏島村	6月20日～21日	耳鼻咽喉科	13人	武藏野赤十字病院	2人
	10月6日～7日	整形外科	7人	大森赤十字病院	3人
	11月6日～8日	小児科	16人	東京かつしか赤十字母子医療センター	2人
青ヶ島村	4月19日～20日	耳鼻咽喉科	26人	武藏野赤十字病院	2人
	6月1日～3日	整形外科	16人	大森赤十字病院	2人
小笠原村	1月18日～29日	整形外科	112人	武藏野赤十字病院	3人
合計	5島11回	4科	452人	3施設	21人

※「受診者数」には、保育園検診及び学校健診が含まれています。

# 武藏野赤十字病院

---

## ● 基本理念

病む人への愛 同僚と職場への愛 地域住民と地域への愛 地球・自然・命への愛

## ● 基本方針

- ・患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- ・地域中核病院としての機能向上を図ります
- ・地域の医療機関・行政と連携して、市民が安心して住める地域づくりを進めます
- ・質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- ・働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります

## ● 事業報告

### ◆新型コロナウイルス感染症への対応

- ・入院患者受入れのための病床を引き続き確保したほか、重症者対応のための HCU（ハイケ アユニット）、中等症の病棟を稼働させて対応にあたりました。
- コロナ対応の病床数については、感染状況に合わせて変動させ、令和4年度の最大病床数は第8波における74床がありました。感染状況が落ち着きを見せた令和5年3月には年度内最小の22床となりました。

### ◆新病棟の建築

- ・予てから計画をしている新1番館の建設については、令和4年3月から地階予定地の掘削と地盤改良工事を開始しました。地中障害物による追加工事の発生やウクライナ情勢の影響による資機材の調達遅延、物価高騰による建築資材への影響等がありましたが、工事全体としては概ね予定通りに進行しており、令和7年9月に完成を予定しています。

### ◆質の高い医療の提供

- ・内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた手術（高度医療）で新たに呼吸器外科での保険適用を目指すべく施設基準の取得に務めています。
- ・無痛分娩のニーズが高いことから、地域との連携に努め、安心で安全にお産ができる体制の整備に取り組みました。
- ・三次救急医療施設として、前年度よりも500台近く多い件数の救急車を受け入れました。

# 大森赤十字病院

---

## ● 基本理念

信頼され心あたたまる病院

## ● 基本方針

- ・安全で質の高い医療を提供します
- ・救急医療を充実し地域医療に貢献するよう努めます
- ・災害救護に積極的に取り組みます
- ・経営の健全化を図りその成果を医療活動に還元します
- ・医療従事者の教育と研究を推進します
- ・ワークライフバランスを尊重した職場環境の整備を進めます

## ● 事業報告

### ◆新型コロナウイルス感染症への対応

- ・入院患者受入れのための病床を引き続き確保したほか、重症者対応のためのICU（集中治療室）、中等・軽症者対応のための病棟を稼働させました。
- コロナ対応の病床数については、感染状況に合わせて変動させ、令和4年度の最大病床数は42床、最小病床数は16床となりました。

### ◆救急医療の強化

- ・院内の協力体制を構築し、救急隊からの応需率を向上させるための取組みを行い、目標を超える件数の救急車を受け入れました。

### ◆その他

- ・地域に開かれた病院として、大田区災害時医療フォーラムの開催に協力しました。
- ・日本赤十字社の国際救援事業に看護師と薬剤師をそれぞれ派遣したほか、災害対応訓練や航空機事故対処総合訓練、こころのケア研修会等に参加し、災害時の対応能力向上に努めました。

# 東京かつしか赤十字母子医療センター

## ● 基本理念

赤十字精神に基づき、女性と子どもとそしてその周囲の人と環境にやさしい病院

## ● 基本方針

- ・質の高い医療の実践
- ・地域社会への貢献
- ・教育の推進
- ・健全な経営と働きやすい職場環境
- ・災害救護活動への貢献

## ● 事業報告

### ◆新型コロナウイルス感染症への取組み

- ・妊産婦用のコロナ受入病床を3床確保し、東京都や地域医師会の要請に基づき、患者の受け入れを行いました。

### ◆質の高い医療サービスの提供

- ・地域周産期母子医療センターとしての役割を果たすために、地域の医療機関からの母体搬送並びに新生児搬送を可能な限り受け入れました。
- ・患者が満足する医療サービスを提供するため、実施した調査の結果や病院へ寄せられたご意見を院内で共有し、速やかな対応・解決に務めました。
- ・分娩件数の減少に対する取組みとして、多様化する妊婦のニーズに応えるため無痛分娩を導入しました。

### ◆地域との連携

- ・葛飾区と協定を締結し、命の大切さを学ぶ出前授業を実施しました。また、区内の神社においては、感染症に対する市民公開講座を開催しました。
- ・院内のセミナールームでは絵本の読み聞かせを行いました。
- ・Instagram等のSNSを活用して、積極的に新病院のPRを行いました。

### ◆災害に対する備え

- ・新病院に対応した災害対策を進めるとともに、災害時の職員の対応能力の向上を目的として、水害を想定した防災訓練や防災マニュアルの整備等を行い、対策の強化に取り組みました。
- ・地域防災組織等との連携の観点から、地域の自営消防訓練審査会に出場しました。

# 血液事業

## ● 血液事業体制の概況

都内 12か所にある献血ルームでは、快適に献血できるように地域環境に適応した施設設計や接遇内容の工夫に努めています。また、血液センターでは献血血液から製造された輸血用血液製剤が医療機関へ安定的に供給できるように努めています。

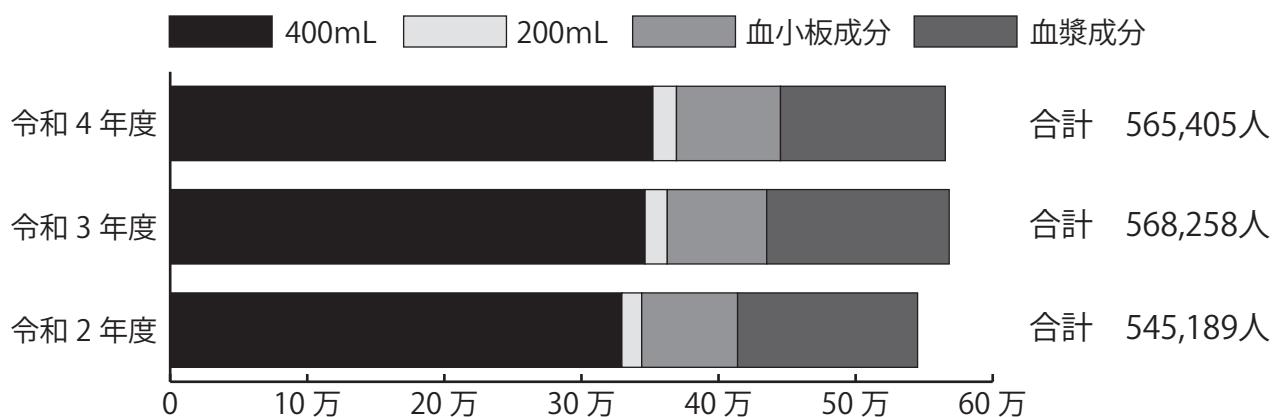
新宿区	新宿西口献血ルーム	千代田区	有楽町献血ルーム	渋谷区	ハチ公前献血ルーム
	都庁献血ルーム		akiba:F 献血ルーム	立川市	立川献血ルーム
	新宿東口献血ルーム		献血ルーム池袋い～すと	武蔵野市	献血ルーム吉祥寺タキオン
墨田区	献血ルーム feel	豊島区	献血ルーム池袋ぶらっと	町田市	まちだ献血ルーム comfy

## ● 事業報告

### ・都内の献血者数と供給状況

令和4年度は、都内で延べ 565,405 人の方に献血のご協力をいただきました。  
また、血液製剤を 2,233,173 本（200 mL 換算）都内の医療機関に供給しました。

【献血方法別献血者数推移】



### 【献血方法別献血者数】

	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
400mL 献血	352,120人	62.3%	346,409人	61.0%	329,479人	60.4%
200mL 献血	17,201人	3.0%	16,210人	2.9%	14,482人	2.7%
血小板成分献血	75,885人	13.4%	72,506人	12.8%	69,938人	12.8%
血漿成分献血	120,199人	21.3%	133,133人	23.4%	131,290人	24.1%
合 計	565,405人	—	568,258人	—	545,189人	—

### 【受入施設別献血者数】

	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
母 体	46人	0.0%	371人	0.1%	215人	0.0%
献血 ルーム	432,901人	76.6%	434,368人	76.4%	421,188人	77.3%
献血 バス	102,043人	18.0%	108,944人	19.2%	100,437人	18.4%
オープン方式	30,415人	5.4%	24,575人	4.3%	23,349人	4.3%
合 計	565,405人	—	568,258人	—	545,189人	—

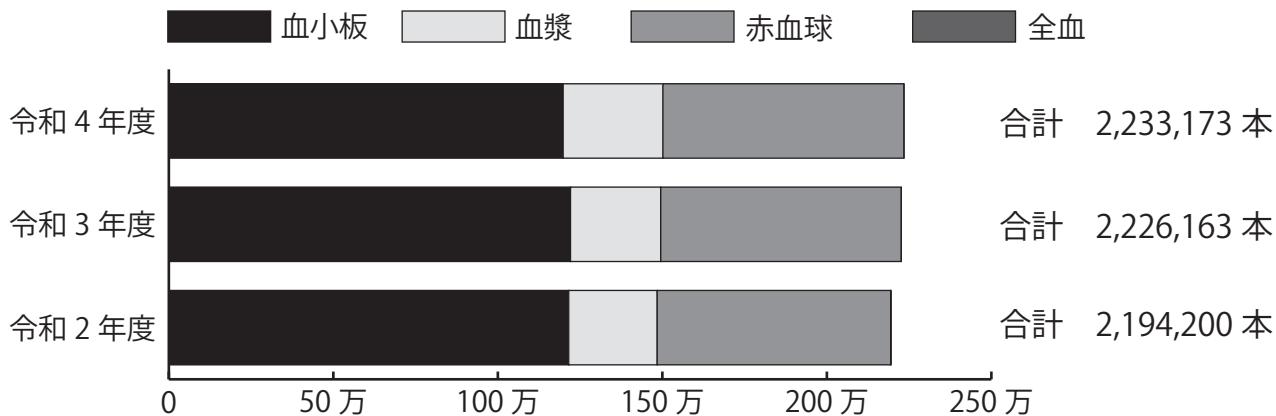
### 【年代別献血者数】

	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
10代(16歳～)	24,493人	4.3%	21,481人	3.8%	16,947人	3.1%
20代	101,793人	18.0%	100,955人	17.8%	95,864人	17.6%
30代	97,359人	17.2%	102,981人	18.1%	104,149人	19.1%
40代	128,651人	22.8%	139,139人	24.5%	142,513人	26.1%
50代	155,364人	27.5%	150,966人	26.6%	139,474人	25.6%
60代	57,745人	10.2%	52,736人	9.3%	46,242人	8.5%
合 計	565,405人	—	568,258人	—	545,189人	—

### 【職業別献血者数】

	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	献血者数	比率	献血者数	比率	献血者数	比率
会社員	348,867人	61.7%	351,292人	61.8%	340,296人	62.4%
公務員	57,067人	10.1%	56,471人	9.9%	55,547人	10.2%
学生	56,374人	10.0%	50,874人	9.0%	41,488人	7.6%
その他	103,097人	18.2%	109,621人	19.3%	107,858人	19.8%
合 計	565,405人	—	568,258人	—	545,189人	—

## 【製剤別供給数推移】



(単位：200mL 換算)

	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	供給本数	比率	供給本数	比率	供給本数	比率
血小板製剤	1,224,211 本	54.8%	1,220,839 本	54.8%	1,215,415 本	55.4%
血漿製剤	276,320 本	12.4%	274,273 本	12.3%	268,951 本	12.3%
赤血球製剤	732,642 本	32.8%	731,051 本	32.8%	709,822 本	32.3%
全血製剤	0 本	0.0%	0 本	0.0%	12 本	0.0%
合計	2,233,173 本	—	2,226,163 本	—	2,194,200 本	—

## ● ラブラッド（献血 Web 会員サービス）

安全な血液を安定的に確保することを目的に、東京都内のラブラッド会員に対し、メール等による献血協力依頼を行いました。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
登録者数	505,126 人	474,871 人	433,939 人

## ● 骨髓ドナー登録への協力

日本赤十字社は「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」に定められた支援機関として、(公財) 日本骨髓バンクの行う骨髓ドナー登録の推進に協力しています。

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
登録者数(都内)	69,975 人	68,558 人	67,073 人
登録者数(全国)	544,305 人	537,820 人	530,953 人

※日本骨髓バンクホームページ／骨髓バンクデータ集より

# 社会福祉事業

## ● 社会福祉事業体制の概況

次世代を担う子どもたちが健やかに育つよう、保育所1か所と児童養護施設1か所を運営しています。

## 武蔵野赤十字保育園

武蔵野赤十字保育園は、0歳から就学前までの子どもたちを保育しています。

武蔵野の緑あふれる住宅地に立地しており、武蔵野市でも広い園庭がある保育園です。

子どもたちは、泥んこ遊びが大好きで、園庭を裸足で駆け回っています。

## ● 基本理念

- ・私たちは「人道・博愛」の赤十字精神のもとに、子どもの人権と、最善の利益を守り、心身ともに健やかで心豊かな成長を目指した保育をします。
- ・子どもが健康で、安全・安心感を持って活動でき、経験や体験を増やして行く保育を大切にします。
- ・養護と教育を一体的に展開することによって、子どもが主体的に活動しながら生きる力を育む保育を大切にします。
- ・子ども一人ひとりの成長、発達を捉え、気持ちに寄り添う保育を大切にします。
- ・子どもの成長、発達を保護者と共有し喜び合うことで、大人も信頼し合い、育ちあえる協力関係を深めていきます。
- ・地域の子育て支援に貢献します。

## ● 保育方針

- ・心と身体の自立を促す保育
- ・人を慈しむ心を育てる保育
- ・生命及び自然を尊重する精神を培う保育

## ● クラス編成

定員：11クラス 178人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員数	12人	30人	30人	30人	38人	38人	178人
在員数	12人	29人	27人	30人	37人	36人	171人

## ● 事業報告

### ◆災害時非常炊き出し実習

武藏野赤十字奉仕団の協力を得て、5歳児が炊き出しを体験しました。また、災害時に自分のいのち自分で守ることの大切さについて学びました。



初めての炊き出し体験

### ◆園庭及び園庭遊具の整備

表面がでこぼこで傾斜が大きかった園庭の地盤は、子どもたちがより安全に遊べるように整備され、泥だんごテーブルやぞうさん滑り台等の新しい遊具が仲間入りしました。



新しい遊具で遊ぶ子どもたち

### ◆子育て支援事業

園児の保育のほか、地域の子育て施設として、地域の様々な社会資源と連携し、地域で子育てをする親子を支援しています。

区分	実施回数／人数	内 容
赤ちゃんの広場	7回 親子 24人	オンラインで開催 0歳児を養育する家庭や妊婦の方を対象に、わらべ歌や手遊びの練習、親同士の交流を通じて、離乳食や保健に関する情報交換を行う
プレママ広場	6回 親子 17人	オンラインで開催 妊娠中の方を対象に、産後の育児イメージを広げるプログラムを行う
体験保育	4回 親子 6人	オンラインで開催 園の概要や園内の遊びの場所を写真で見てもらったり、質疑応答、保育士から手袋シアター、園児の食事、遊びを写真や動画で提供する
ごっこ遊び	—	水族館・星ランド (近隣の小規模保育園児の招待は実施せず)

### ◆地域交流事業

地域との交流を通じて園児の社会性を養うとともに、地域の方々に保育事業や赤十字事業に触れてもらう機会を設けています。

区分	実施回数／人数	内 容
職場体験	2日間 2人	市内の中学生の職場体験者を受け入れ、保育業務と赤十字への理解を促す
ボランティア	1回 5人	武藏野市赤十字奉仕団により、ハイゼックスを使用した炊き出しを支援いただく

# 赤十字子供の家

赤十字子供の家は、家庭環境上、施設養護を必要とする2歳から18歳までの子どもたちに対し、保護養育・自立支援を行う児童養護施設です。

定員は40人で、本園に28人、分園（エトワールフィユ山崎、さくら）に各6人が暮らしています。

## ● 基本理念

「生きる力を育み、自立へと共に歩む」

- ・人間のいのちと健康・尊厳を守る
- ・子どもの利益を最優先した支援を行う
- ・子どもと家庭の関係を大切にする
- ・子どもの自己決定と主体性を大切にする
- ・子どもの発達支援・自立支援を行う
- ・信頼できる職員であり、安心できる生活を提供する

## ● 事業報告

### ◆概要

年間を通じて定員は埋まらない状況が続いていましたが、一時保護については前年の倍以上の在籍となりました。被虐待児や病弱児、こころに課題を抱えた子どもの割合が高い傾向が見られます。

### ◆感染対策を講じた日常生活

コロナ禍では日常生活が制限され、子どもたちの発達における経験不足が顕著となったため、夏頃から感染対策に十分に配慮しながら、一部の行事等を再開しました。

子どもたちの成長・発達のみならず、職員の育成にもつながりました。

### ◆ケアニーズの高い子どもへの対応の充実化

他の施設での取組みに関する情報収集やアンケート調査等を行い、プロジェクトとして検討を進めました。この結果をもとに、次年度以降職員への研修等を行いながら、実践に活かしていきます。

## ● 在園児等の状況

[月別児童入退所状況（定員 40 人）]

令和4年度の延べ児童数は 415 人で入所率は 86% でした。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一日在籍児	27人	30人	32人	33人	32人	35人	36人	37人	38人	37人	39人	39人	415人
退 所	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	7人	9人
入 所	4人	2人	1人	0人	3人	0人	2人	1人	0人	2人	0人	0人	15人
一 時 保 護	2人	3人	4人	5人	4人	3人	2人	1人	1人	1人	1人	1人	28人

[入所理由推移]

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
被 虐 待 児	22人	22人	18人
父 母 家 出			
父 母 傷 病	2人	1人	2人
父 母 死 亡			
父 母 就 労			
そ の 他	16人	14人	16人
合 計	40人	37人	36人

[退所理由推移]

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
引 取 り	4人	8人	2人
措 置 変 更	4人	5人	3人
養 育 家 庭			3人
里 親 委 託			
そ の 他	1人		
合 計	9人	13人	8人

[在籍児童の状況]

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
被 虐 待 児	35人	27人	26人
知的障害 / 発達障害	8人	6人	5人
身 体 障 が い	1人		
病 的 症 状	21人	22人	23人
心 理 治 療	17人	19人	21人
外 国 籍、無 国 籍	1人	1人	1人
そ の 他	4人		
合 計	87人	75人	76人

## ● 寄付金及び寄贈品

赤十字子供の家は様々な方からご寄付やご寄贈品をいただいています。

皆さまの善意は事業運営に活用させていただきました。

寄付金 56 件 3,127 千円

寄贈品 95 件 計 3,526 千円

## ○園行事

コロナ禍により、一部の行事は中止・縮小実施となったものの、従前の行事を再開することができました。

行事名	実施月日	対象	他参加者および支援者
交流遠足	中止	全児童	
海水浴	各居室による	全児童	
年長児キャンプ	8月29日～30日	年長児10人	
就学児キャンプ	8月25日～26日	学童児7人	
中学生キャンプ	8月11日～13日	中学生2人	
あきまつり (縮小して実施)	10月16日	全児童 退所児	
ハロウィン	10月31日	全児童	
七五三	11月13日	3歳女児2人 5歳男児5人 7歳女児1人	保護者、ボランティア(着付け)
もちつき	12月7日	全児童	
クリスマス	12月24日	全児童	
初詣	1月1日	在園児	
正月外出	1月1日、2日	在園児	
雪遊び幼児	2月12日～13日	年長・年中児15人	
雪遊び就学児	1月28日	小中学生9人	



子どもたちがもちつきに挑戦

## ● 武蔵野市子ども家庭支援センター（受託事業）

### ◆電話相談

家庭の子育て機能の低下、親の育児不安への対応及び虐待の防止、並びに地域における子育て支援対策として、武蔵野市から電話相談事業を受託しています。

#### ※相談受付時間

日曜、祝日及び年末年始を除く毎日で、平日は午後5時から午後10時まで、  
土曜日は午前8時半から午後10時まで（平日の日中は武蔵野市で対応）

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
相談件数	140件	107件	132件

### ◆ショートステイ

家庭の子育て機能が低下するなか、地域における子育て支援として、武蔵野市から武蔵野市子育てショートステイ事業を受託しています。

#### ※ショートステイ受入れ内容

- ・市内に住民票がある2歳から小学校6年生までが対象
- ・利用事由は、死亡、行方不明、病気、出産、介護、冠婚葬祭、出張、育児不安、育児疲れ等
- ・原則7泊以内で定員3人まで

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
受入数	106人	67人	39人

# 看護師養成

## ● 看護師養成の概況

学校法人日本赤十字学園は、日本赤十字看護大学を設置し、看護師になるために国が定めた科目のほかに、赤十字について理解する「赤十字概論」、災害医療について学ぶ「災害看護論」、救護訓練等、赤十字の特色ある教育を行っています。また、日本赤十字社が設置する幹部看護師研修センターは、将来の幹部看護師等として活躍する人材を育成するため、看護職を対象とした各研修を行っています。

東京都支部は、臨床看護や訪問看護等の地域医療のほか、赤十字の人道の理念のもと、国内外の被災地や紛争地域で活躍できる赤十字看護師の養成を支援しています。

## ● 看護大学の支部奨学生への助成

都内の赤十字医療施設に将来就職する看護師の確保のために、日本赤十字社看護大学の学生の一部を奨学生と位置付けて、1人あたり年額60万円の授業料の助成を行っています。令和4年度は24人の学生が、助成金の交付を受けました。

	武蔵野赤十字病院	大森赤十字病院	東京かつしか赤十字母子医療センター	合計
委託・奨学生数	14人	7人	3人	24人

## ● 幹部看護師の養成

日本赤十字社幹部看護師研修センターでの各研修コースを受講する、都内の赤十字医療施設に在籍する人材の推薦を行っています。令和4年度は、10人の看護師が研修を修了しました。

	武蔵野赤十字病院	大森赤十字病院	東京かつしか赤十字母子医療センター	合計
修了者数	4人	5人	1人	10人

救護や看護に関する専門的な知識・技術に特化した研修の他に、管内の支部・施設での一般的な業務遂行能力の向上を目的として、基礎的かつ普遍的な内容の能力開発研修も実施しています。

### ● 東京都支部主催研修（第2ブロック合同開催を含む）

研修名称	開催日	参加者数	目的
目標管理・タイムマネジメント研修	5月10日	36人	組織目標に沿った実践的な目標管理等を習得する
人事・労務管理研修	6月13日	36人	労働基準法等の基礎的な知識を習得する
会計・財務研修	6月21日	31人	経理会計業務に必要な基礎的な知識を習得する
OJT研修	10月19日	17人	人材育成に必要な意図的・計画的・継続的な指導法等を習得する
実務遂行力研修	10月31日	28人	考え方のクセを打破する思考力を強化する
対人対応力研修	11月17日	12人	チームワークを高める議論と対話の技術を身につける
概念構築力研修	8月23日	15人	問題発見・解決力を強化する
中堅職員研修	7月4日～7月5日	43人	仕事の管理改善に関しての知識の習得と、業務を円滑に遂行するための職場の人間関係について理解を深める
新任課長級職員研修	7月21日～7月22日	10人（東京） [第2ブロック：95人]	管理職としてのマネジメント、人材育成に必要な能力向上を図る
	8月2日～8月3日		
新任係長級職員研修	7月5日～7月6日	17人（東京） [第2ブロック：182人]	係長職として必要な業務推進能力と問題解決能力、部下への指導力を身につける
	7月12日～7月13日		
	7月28日～7月29日		
既任課長級研修	12月20日～12月21日	11人	管理者として問題発見及び解決能力並びに組織運営・人材育成に関する知識を養い、管理能力の向上を図る
既任係長級研修	12月5日	10人（東京） [第2ブロック：95人]	中間管理者として部下の指導と仕事のすすめ方についての能力を養成する

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部WEB形式で開催しました。

## ● 本社主催研修等

新規採用職員研修や幹部職員養成研修といった階層別の研修をはじめ、国際救援・開発協力に参加するための専門研修等、様々な研修に参加することで、赤十字の使命である人道的任務を達成するために求められる幅広い知識やスキルを習得しています。



職場外研修で他施設で働く職員と意見交換を行う

### ● 評議員会の概要

評議員会は、支部長・副支部長や監査委員らの役員や代議員の選出にあたるほか、支部の重要な業務について審議する機関です。評議員会のほかにも評議員懇親会を設置し、事業の適正な運営を期しています。各評議員の任期は3年です。

#### [役員]

役職	氏名	職等	就任日
支部長	小池百合子	東京都知事	平成28年10月19日
	黒沼靖	東京都副知事	令和3年10月25日
副支部長	山崎孝明	特別区長会会長、江東区長、地区長	令和元年7月12日
	倉石誠司	東京商工会議所副会頭	令和5年3月7日
監査委員	栖雲勲子	赤十字奉仕団東京都支部委員会 名誉委員 社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会会長	平成27年5月22日
	瀬戸川睦人	「サービス付き高齢者向け住宅」支援事業 社主	令和3年3月1日
顧問	長谷川光延	(元)赤十字奉仕団東京都支部委員会副会長	令和3年10月1日
参与		西山智之 後藤明	小寺康裕 町格

#### [地区選出評議員(定員99人)]

地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
千代田区	樋口高顕	江東区	菅澤運一	"	杉田紀子
"	(欠員)	"	渡邊恵司	"	黒田眞喜子
中央区	安西暉之	品川区	丹治勝重	"	栗田幸子
"	渋井賢太郎	"	関召一	"	大場弘
港区	今野由理子	"	金子正秀	"	西山夫美子
"	(欠員)	目黒区	青木英二	渋谷区	窪田久子
新宿区	浅見幹夫	"	五十嵐正夫	"	富澤洋
"	桑原公平	大田区	松原忠義	中野区	加藤洋右
文京区	鳥海益恵	"	平林敏夫	"	松延元子
"	茅島栄子	"	鈴木英明	杉並区	岸本聰子
台東区	服部征夫	"	松原茂登樹	"	高武征
"	政木喜三郎	"	中島寿美	"	矢崎芳子
墨田区	野原健治	"	大芦重雄	豊島区	(欠員)
"	松本紀良	世田谷区	保坂展人	"	片桐昌英

地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名
北区	小野田 さち子	"	田倉 光代	国分寺市	井澤 邦夫
"	正木 好江	立川市	村山 正道	国立市	永見 理夫
"	鈴木 將雄	"	(欠員)	福生市	加藤 育男
荒川区	西川 太一郎	武蔵野市	松下 玲子	狛江市	松原 俊雄
"	木内 輝男	"	宇田川 みち子	東大和市	樋口 健次
板橋区	坂本 健	三鷹市	河村 孝	清瀬市	小寺 茂
"	平塚 幸雄	"	中館 文子	東久留米市	富田 竜馬
"	山本 照子	青梅市	浜中 啓一	武蔵村山市	山崎 泰大
練馬区	前川 翔男	府中市	高野 律雄	多摩市	阿部 裕行
"	浅沼 敏幸	"	志水 清隆	稲城市	高橋 勝浩
"	加藤 政春	昭島市	濱田 信子	羽村市	橋本 弘山
足立区	依田 保	調布市	長友 貴樹	あきる野市	田中 トシ子
"	峯岸 重隆	"	田邊 美春	西東京市	細田 修克
"	加藤 和明	町田市	石阪 丈一	"	清水 文子
葛飾区	大谷 隆興	"	戸塚 正人	西多摩	森泉 旬子
"	(欠員)	小金井市	白井 亨	大島	川島 つねみ
"	(欠員)	小平市	小林 洋子	三宅	田代 則史
江戸川区	加藤 モモ子	日野市	大坪 冬彦	八丈	池野 大介
八王子市	小平 芳子	東村山市	水戸部 瑞江	小笠原	島田 律子

[支部長選出評議員 (定員 15 人)]

関係機関	氏名	関係機関	氏名
東京都福祉保健局	西山 智之	赤十字奉仕団	高橋 弘光
特別区長会	近藤 やよい	青少年赤十字	小寺 康裕
東京都市長会	橋本 弘山	紺綬褒章受章者	伊藤 優彦
東京都町村会	杉浦 裕之	東京都総務局危機管理監	原田 智総
東京商工会議所	小林 治彦	東京都社会福祉協議会	横山 宏
日本放送協会	代田 一貴	東京都共同募金会	加納 高仁
日本民間放送連盟	中村 泰輔	東京青年会議所	下山田 敏介
本社理事	高野 律雄		

[評議員懇談会委員]

氏名	日本赤十字社役職	公職等
栖雲 敦子	監査員、赤十字奉仕団東京都支部委員会 名誉委員、社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会 会長	
長谷川 光延	顧問、(元) 赤十字奉仕団東京都支部委員会副会長	(元) 目黒区議会議長
瀬戸川 瞳人	監査員、代議員、東京都日赤紺綏有功会会長	
高野 律雄	理事、代議員、地区長、支部長選出・地区長選出評議員	府中市長
服部 征夫	代議員、地区長、地区選出評議員、台東区赤十字奉仕団委員長	台東区長
小川 忠彦	代議員、全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会顧問 東京都青少年赤十字賛助奉仕団顧問、東京都日赤紺綏有功会副会長	
伊藤 優彦	代議員、支部長選出評議員、東京都日赤紺綏有功会顧問 紺綏褒章受章代表者	(元) 昭島市長
萩原 重睦	代議員、東京都日赤紺綏有功会副会長	
小嶋 淑子	代議員、東京都日赤紺綏有功会副会長	
嶋田 慶三	代議員、東京都日赤紺綏有功会相談役	
八木 幸子	代議員、八王子市赤十字奉仕団顧問	
阿美 澄枝	代議員、赤十字奉仕団東京都支部委員会副会長 小金井市赤十字奉仕団委員長	
杉浦 裕之	代議員、支部長選出評議員、分区長	東京都町村会会长、瑞穂町長
高橋 弘光	代議員、赤十字奉仕団東京都支部委員会 会長	
竹之内 勉	代議員、新宿大通商店街振興組合理事長	

● 事業報告

[評議員会の開催]

第 2 回については、開催日当日の悪天候により参集開催を中止し、文書審議としました。

	開催日	議事
第 1 回	令和 4 年 6 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評議員、役員及び代議員の異動報告について</li> <li>・職員の人事異動報告について</li> <li>・代議員の選出について</li> <li>・令和 3 年度事業報告について</li> <li>・令和 3 年度一般会計、医療施設特別会計及び社会福祉施設特別会計決算について</li> </ul>
第 2 回	中止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評議員、役員及び代議員の異動報告について</li> <li>・令和 4 年度事業報告（中間報告）について</li> <li>・副支部長の選出について</li> <li>・令和 5 年度事業計画（案）について</li> <li>・令和 5 年度一般会計、医療施設特別会計及び社会福祉施設特別会計予算（案）について</li> </ul>

[評議員懇談会の開催]

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため開催を見送りました。

# 参考資料

## (1) 赤十字について

赤十字は、国籍、人種、宗教、敵味方の区別なく、災害の被災者や紛争犠牲者に対して人道的支援を行う世界最大の人道機関です。そのネットワークは、192の国と地域に広がっており、世界に存在するほとんどの国で赤十字が活動しています。

### ア 3つの標章の意味

#### [保護標章]

紛争地帯で傷ついた人々と、その人々を救護する赤十字関係者や施設、軍の衛生部隊等を「保護」するためのマークです。赤十字マークを掲げている病院や救護員等を攻撃することは禁止されています。



赤十字  
RED CROSS  
赤新月  
RED CRESCENT  
レッドクリスタル  
RED CRYSTAL  
赤十字マークは、ジュネーブ条約や法律等により厳格に使用方法が定められています。

#### [表示標章]

赤十字機関に所属していることを示すための「表示」のマークとして使用されることもあります。

### イ 赤十字の組織としくみ

#### [赤十字国際委員会 (ICRC)]

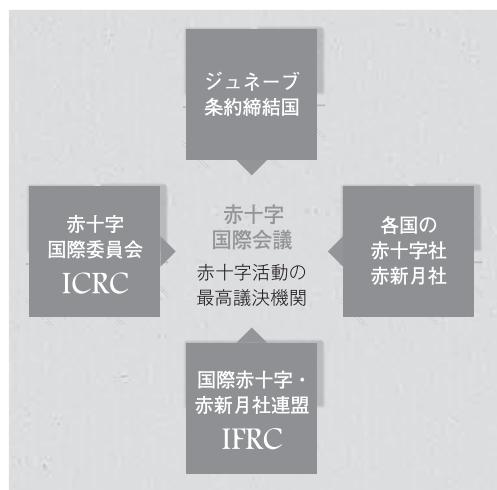
武力紛争およびその他暴力の伴う事態によって犠牲を強いられる人々の生命と尊厳を保護し、必要な援助を提供します。

#### [国際赤十字・赤新月社連盟 (IFRC)]

192の赤十字社、赤新月社の連合体。各国での活動を支援、推進し、災害時に国際的な活動の調整を行います。

#### [各国の赤十字社、赤新月社]

紛争や災害時の傷病者の救護活動、平時における医療・保健、血液事業、青少年の育成等の人道的な活動を行います。



## ウ 国際赤十字・赤新月社運動の基本原則

1965年（昭和40年）にウィーンで開催された第20回赤十字国際会議で、赤十字の活動の基礎となる「赤十字基本原則」が決議され、宣言されました。

### [人道（Humanity）]

国際赤十字・赤新月運動は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えるという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的及び国内的に努力します。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにあります。赤十字・赤新月はすべての国民間の相互理解、友情、協力及び堅固な平和を助長します。

### [公平（Impartiality）]

赤十字・赤新月は国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別もしません。赤十字・赤新月は、ただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合、最も急を要する困苦をまっさきに取り扱います。

### [中立（Neutrality）]

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字・赤新月は、戦闘行為の時いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しません。

### [独立（Independence）]

赤十字・赤新月は独立しています。各国赤十字社・赤新月社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律に従いますが、常に赤十字・赤新月の基本原則にしたがって行動できるよう、その自主性を保たなければなりません。

### [奉仕（Voluntary Service）]

赤十字・赤新月は、利益を求める奉仕的救護組織です。

### [単一（Unity）]

いかなる国にもただ一つの赤十字社・赤新月社しかありません。赤十字社・赤新月社は、すべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければなりません。

### [世界性（Universality）]

赤十字・赤新月は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字社・赤新月社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持ちます。

## (2) 世界の赤十字社・赤新月社一覧

承認順	国名	承認年	承認順	国名	承認年	承認順	国名	承認年	承認順	国名	承認年
1	ベルギー	1864	48	アイスランド	1925	95	サウジアラビア*	1963	142	スリナム	1986
2	イタリア	1864	49	エルサルバドル	1925	96	セネガル	1963	143	ジブチ*	1986
3	スウェーデン	1865	50	カナダ	1927	97	タンザニア	1963	144	グレナダ	1987
4	ノルウェー	1865	51	ドミニカ共和国	1927	98	トリニダードトバゴ	1963	145	チャド	1988
5	スイス	1866	52	オーストラリア	1927	99	ブルンジ	1963	146	モザンビーク	1988
6	オーストリア	1867	53	インド	1929	100	ベナン	1963	147	ドミニカ国	1989
7	トルコ*	1868	54	ニュージーランド	1932	101	マダガスカル	1963	148	セントビンセント及び グレナディーン諸島	1989
8	オランダ	1868	55	イラク*	1934	102	ネパール	1964			
9	英国	1870	56	ニカラグア	1934	103	ジャマイカ	1964	149	ソロモン諸島	1991
10	デンマーク	1876	57	ハイチ	1935	104	ウガンダ	1965	150	セイシェル	1992
11	ルーマニア	1876	58	エチオピア	1935	105	ニジェール	1965	151	セントクリストファー・ネイビス	1992
12	ギリシャ	1877	59	ホンジュラス	1938	106	ケニア	1966	152	アンティグア・バーブーダ	1992
13	ペルー	1880	60	ミャンマー	1939	107	サンビア	1966	153	ナミビア	1993
14	アルゼンチン	1882	61	アイルランド	1939	108	マリ	1967	154	スロバキア	1993
15	ハンガリー	1882	62	リヒテンシュタイン	1945	109	クウェート*	1968	155	チェコ	1993
16	アメリカ	1882	63	シリア*	1946	110	ガイアナ	1968	156	スロベニア	1993
17	ブルガリア	1885	64	レバノン	1947	111	ソマリア*	1969	157	クロアチア	1993
18	ボルトガル	1887	65	フィリピン	1947	112	ボツワナ	1970	158	ウクライナ	1993
19	日本	1887	66	モナコ	1948	113	マラウイ	1970	159	バヌアツ	1993
20	スペイン	1893	67	バキスタン*	1948	114	レソト	1971	160	マルタ	1993
21	ベネズエラ	1896	68	ヨルダン*	1948	115	バーレーン*	1972	161	アンドラ	1994
22	ウルグアイ	1900	69	インドネシア	1950	116	モーリタニア*	1973	162	赤道ギニア	1994
23	南アフリカ	1900	70	サンマリノ	1950	117	シンガポール	1973	163	トルクメニスタン*	1995
24	フランス	1907	71	スリランカ	1952	118	バングラデシュ*	1973	164	ウズベキスタン*	1995
25	チリ	1909	72	ドイツ	1952	119	フィジー	1973	165	アルメニア	1995
26	キューバ	1909	73	アフガニスタン*	1954	120	中央アフリカ	1973	166	アゼルバイジャン*	1995
27	メキシコ	1912	74	大韓民国	1955	121	ガンビア	1974	167	ペラルーシ	1995
28	中国	1912	75	朝鮮民主主義人民共和国	1956	122	コンゴ共和国	1976	168	マケドニア旧ユーゴスラビア	1995
29	ブラジル	1912	76	ラオス	1957	123	パハマ	1976	169	ブルネイ*	1996
30	ルクセンブルク	1914	77	チュニジア*	1957	124	バブアニューギニア	1977	170	キルギスタン*	1997
31	ポーランド	1919	78	スーダン*	1957	125	モーリシャス	1977	171	キリバス	1997
32	フィンランド	1920	79	ベトナム	1957	126	スワジ蘭	1979	172	パラオ	1997
33	タイ	1920	80	モロッコ*	1958	127	トンガ	1981	173	タジキスタン*	1997
34	ロシア	1921	81	リビア*	1958	128	カタール*	1981	174	グルジア	1997
35	コスタリカ	1922	82	ガーナ	1959	129	イエメン*	1982	175	ガボン	1999
36	コロンビア	1922	83	リベリア	1959	130	ルワンダ	1982	176	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2001
37	パラグアイ	1922	84	モンゴル	1959	131	ジンバブエ	1983	177	モルドバ	2001
38	エストニア	1922	85	カンボジア	1960	132	ベリーズ	1984	178	クック諸島	2002
39	ボリビア	1923	86	ナイジェリア	1961	133	サモア	1984	179	カザフスタン*	2003
40	ラトビア	1923	87	トーゴ	1961	134	パラバドス	1984	180	ミクロネシア	2003
41	エクアドル	1923	88	シエラレオネ	1962	135	カーボベルデ	1985	181	コモロ連合*	2005
42	アルバニア	1923	89	ブルキナファソ	1962	136	サントメ・プリンシペ	1985	182	東ティモール	2005
43	グアテマラ	1923	90	コンゴ民主共和国	1963	137	ギニアビサウ	1986	183	パレスチナ*	2006
44	リトアニア	1923	91	マレーシア*	1963	138	アラブ首長国連邦*	1986	184	イスラエル**	2006
45	エジプト*	1924	92	アルジェリア*	1963	139	セントルシア	1986	185	セルビア	2006
46	バナマ	1924	93	カメルーン	1963	140	ギニア	1986	186	モンテネグロ	2006
47	イラン*	1924	94	コートジボワール	1963	141	アンゴラ	1986	187	モルディブ*	2011
								188		キプロス	2012
								189		南スーダン	2013
								190		ツバル	2015
								191		マーシャル諸島	2017
								192		ブータン王国	2019

国名の後に標の無いものは赤十字社 \*は赤新月社 \*\*は赤盾社

### (3) 都内赤十字施設一覧

	郵便番号	住所	電話番号	設置年月
本社	105-8521	港区芝大門1-1-3	03(3438)1311	明治10年5月
東京都支部	169-8540	新宿区大久保1-2-15	03(5273)6741	明治20年10月
医療施設	日本赤十字社医療センター*	渋谷区広尾4-1-22	03(3400)1311	明治19年11月
	武蔵野赤十字病院	武蔵野市境南町1-26-1	0422(32)3111	昭和24年11月
	大森赤十字病院	大田区中央4-30-1	03(3775)3111	昭和28年7月
	東京かつしか赤十字母子医療センター	葛飾区新宿3-7-1	03(5876)3511	昭和28年2月
血液センター	関東甲信越ブロック血液センター*	江東区辰巳2-1-67	03(5534)7666	平成24年4月
	東京都赤十字血液センター	新宿区若松町12-2	03(5272)3511	昭和39年8月
	立川事業所	立川市緑町3256	042(529)0401	昭和45年5月
	武蔵野出張所	武蔵野市境南町1-26-1	0422(32)1100	平成13年10月
	葛飾事業所	葛飾区亀有5-14-15	03(5682)2802	昭和42年6月
	大田出張所	大田区仲六郷3-30-1	03(3733)3315	昭和43年6月
	辰巳供給出張所	江東区辰巳2-1-67	03(5534)7662	平成27年12月
	献血ルーム feel	墨田区押上1-1-2スカイツリータウン・ソラマチ10階	03(6456)1972	平成25年4月
	新宿東口献血ルーム	新宿区新宿3-17-5T&TⅢビル5階	03(6380)0654	令和3年12月
	新宿西口献血ルーム	新宿区西新宿1丁目西口地下街1号	03(3348)1211	昭和60年4月
	日赤都庁献血ルーム	新宿区西新宿2-8-1都議会議事堂地下1階	03(3343)2231	平成3年4月
	ハチ公前献血ルーム	渋谷区道玄坂2-3-2大外ビル6階	03(3476)2880	平成20年12月
	有楽町献血ルーム	千代田区有楽町2-10-1東京交通会館6階	03(3213)8666	平成3年12月
	献血ルーム 池袋い～すと	豊島区東池袋1-1-4 タカセ・セントラルビル8階	03(3988)9000	平成4年7月
	献血ルーム 池袋ぶらっと	豊島区東池袋1-12-8フジキビル3階	03(5950)3000	平成11年7月
	献血ルーム 吉祥寺タキオン	武蔵野市吉祥寺本町1-15-2タキオローレビル8階	0422(21)9000	昭和62年11月
	akiba:F 献血ルーム	千代田区外神田1-16-9朝風二号館ビル5階	03(3251)8201	平成21年10月
	立川献血ルーム	立川市曙町2-7-17丸井・井上共同ビル地下1階	042(527)1140	昭和57年9月
	まちだ献血ルーム comfy	町田市原町田6-3-3町映ビル7階	042(732)8494	平成6年9月
社会福祉施設	日本赤十字社総合福祉センター*	渋谷区広尾4-1-23	03(6861)4800	平成24年4月
	日本赤十字社医療センター付属乳児院*	渋谷区広尾4-1-1	03(3400)1311	昭和23年11月
	武蔵野赤十字保育園	武蔵野市中町3-25-7	0422(52)3298	昭和26年9月
	赤十字子供の家	武蔵野市境南町1-26-27	0422(31)8283	昭和25年4月
	エトワール・フィユ山崎	武蔵野市閑前4-8-33		平成14年2月
看護教育施設	さくら	武蔵野市境南町5-2-26		平成28年2月
	日本赤十字社幹部看護師研修センター*	渋谷区広尾4-1-3	03(3499)1709	平成15年4月
	日本赤十字社助産師学校*	渋谷区広尾4-1-3	03(3400)1311	昭和26年4月
	日本赤十字看護大学**	渋谷区広尾4-1-3	03(3409)0875	昭和61年4月

\* 本社直轄施設

\*\* 学校法人 日本赤十字学園施設

